

令和8年

臨床実習の手引き  
〔臨床実習Ⅱ〕

島根大学医学部

# 臨床実習について

本学医学科における臨床実習は、4年次1月から6年次7月までの間に72週間(変更になることがあります)にわたって、病棟および外来での実習(本学医学部附属病院を中心に関連教育病院・診療所を含む)で行われる重要な卒前医学教育課程である。実習は、以下の3つの実習から構成されている。

## 1. 臨床実習 I (44週)

総合診療・地域医療学, 小児科, 精神科神経科, 産科婦人科, 麻酔科(緩和ケア), 救急科, 救急科, 高度外傷センター, 整形外科, リハビリテーション科, 検査部, 病理部, 輸血部, 薬剤部, 眼科, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 歯科口腔外科, 呼吸器外科, 心臓血管外科, 消化器・総合外科, 泌尿器科, 腎臓内科, 膠原病・リウマチ内科, 呼吸器・化学療法内科, 腫瘍内科, 血液内科, 脳神経外科, 脳神経内科, 放射線科, 放射線治療科, 医療安全管理部, 感染制御部, 医療機器診療支援センター, 臨床研究センター, 栄養サポートセンター, 皮膚科, 形成外科, 乳腺外科, 消化器内科, 肝臓内科, 内分泌代謝内科, 循環器内科

## 2. 臨床実習 II (28週)

- 内科系診療科: 血液内科、膠原病内科、呼吸器内科、内分泌内科、腫瘍内科、循環器内科、消化器・肝臓内科、腎臓内科、脳神経内科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科、臨床検査、病理、精神科神経科、小児科、総合診療科
- 外科系診療科: 外傷センター、眼科、救急科、形成外科、呼吸器外科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、循環器外科、消化器総合外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科(緩和ケア含む)、産婦人科

## 3. フレキシブル実習(臨床実習 II のフレキシブル期間のみ選択できる実習)

まず、4～5年次の臨床実習 I においては、附属病院の全診療科をローテーションして実習を行う。各診療科・診療施設はA～Nのコースに分かれており、1コースにつき3週間の実習を実施する。このうち、小児科、産科婦人科、精神科神経科、総合診療/地域医療学については、1診療科のみを実習する。それ以外の診療科については、複数診療科で1つのコースを構成し、3週間の実習を行う。

5～6年次の臨床実習 II では、内科系コース・外科系コース・自由系コースからそれぞれ2つずつ、計6診療科を選択し、各4週間の連続実習を行う。残りの4週間についてはフレキシブル期間とし、本院での実習に限らず、県内外の医療機関や海外での研修なども実施することができる。

臨床実習は、可能な限り学生が医療チームの一員として実際の診療に参加する診療参加型実習(臨床クラークシップ)として実施しており、実習の到達度は学生・教員双方が端末から評価に関するマニュアルのとおりに入力する。臨床実習は学生が患者さんと直接接して行う実践型の学習であるため、とりわけ臨床クラークシップでは、学生にも一定水準以上の医学的知識・技術・態度が求められる。主体性と責任感をもって実習に臨むとともに、本手引きに記載された注意事項を事前に熟読したうえで臨むことが必須である。

# 目 次

I. クリニカルクラークシップとは	1
II. 学習目標	1
III. 医学生の臨床実習において、一定条件下で許容される基本的医行為	1
IV. クリニカルクラークシップにおける1日の流れ	2
V. 学生の正規カルテへの記録について	3
VI. 個人情報の保護について	4
VII. 学生の遵守事項	4
VIII. 評価・単位認定の要件	7
IX. 感染事故への対応	8
X. 賠償責任保険加入の勧め	9
XI. クリニカルスキルアップセンター備品一覧	10

## 臨床実習Ⅱ

令和8年 臨床実習Ⅱ日程表	14
内分泌代謝内科	15
血液内科	17
腫瘍内科	19
消化器・肝臓内科	21
脳神経内科	23
膠原病内科	25
循環器内科	27
腎臓内科	29
呼吸器・臨床腫瘍学（呼吸器・化学療法内科）	31
皮膚科	33
形成外科	35
小児科	37
消化器・総合外科	39
循環器外科（心臓血管外科）	41
呼吸器外科	43
整形外科	45
リハビリテーション科	46
脳神経外科	48
泌尿器科	50
精神科神経科	51

産科婦人科	52
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	54
眼科	55
放射線科	56
放射線治療科	58
乳腺外科	60
麻酔科	61
歯科口腔外科	63
臨床検査	65
病理診断科	66
救急科	68
Acute Care Surgery	70
医学生手技リスト	73
医学部附属病院案内図	77

## I. クリニカルクラークシップとは

クリニカルクラークシップ (clinical clerkship) とは、従来の見学型臨床実習とは異なり、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付ける**臨床参加型実習**のことである。クラーク (clerk) とは、書記、事務員を意味しており、学生が上級医の指導の下で「クラーク」として患者を受け持つことで実際の医療の基本を修得する。従って、クリニカルクラークシップでは、学生は student doctor として診療に参加し、指導医の指導・監視の下で一定の範囲内での医行為を実践することが許容される。学生は、自らの主体性と責任感をもって学ぶことが求められている。

## II. 学習目標

将来医師として必要な以下に示す実践的臨床能力を修得することを目標とする。

- ◆ 患者や指導医、病棟スタッフと良好な関係を築く能力
- ◆ 患者から情報を的確に聞きだし、まとめる能力
- ◆ 身体所見を正しくとり、診療内容を記載する能力
- ◆ 要点を把握し、プレゼンテーションする能力
- ◆ 基本的検査・基本的操作処置を実施する能力
- ◆ 問題点を抽出し、解決に向かって系統的にアプローチする能力
- ◆ 患者から得た情報と臨床病態学の知識を統合する能力
- ◆ 学習に必要な情報を図書館やコンピューターを使って見つける能力

## III. 医学生の実習において、一定条件下で許容される基本的医行為

レベル I	指導医の指導・監督のもとに実施が許容されるもの
レベル II	状況によって指導医の指導・監視のもとに実施が許容されるもの
レベル III	原則として指導医の実施の介助又は見学にとどめるもの

## IV. クリニカルクラークシップにおける1日の流れ

### 《初日のオリエンテーション》

- ◆ 初日、学生は指定された場所に集合し、オリエンテーションを受ける。時間厳守する。
- ◆ 指導医より、診療チームの紹介および受け持ち患者の紹介などが行われる。また、指導医等との連絡方法を確認する。
- ◆ 回診、症例カンファレンス、レクチャーなど当該診療科での行事およびプレゼンテーションについて確認する。
- ◆ 「評価に関するマニュアル」に記載の対応を実施する。

### 《毎日の流れ》

- ◆ 自己健康管理票の症状の欄に1つでもチェックが入った場合、院内に入らず、実習の可否を指導医に連絡する。
- ◆ 自己健康管理票および実習日誌に指導医の押印あるいは署名をもらう。
- ◆ 指導医が朝病棟に来る前に、受け持ち患者の看護記録に目を通したうえで自分で回診・診察し病状を把握する。また、問題点を整理しておく。
- ◆ 毎朝のチーム回診に参加し、受け持ち患者については口頭で提示する。
- ◆ 指導医とディスカッションを行い、今後の方針を決定すると同時に、診察内容を電子カルテに記載して、指導医に記載内容を依頼する。この際、記載内容についての指導医の点検（加筆・訂正）をうけ、署名をしてもらう。
- ◆ 不明な点や問題点は指導医と相談するが、自主的に文献等を検索して解決へ向けての学習を行う。
- ◆ 症例カンファレンス、レクチャーには必ず参加し、受け持ち患者についてはプレゼンテーションを行う。
- ◆ 新患の医療面接や身体診察を行い、回診やカンファレンスでプレゼンテーションを行う。
- ◆ 受け持ち患者の検査、処置、手術、他科紹介等には必ず出向き、指導医の指導を受ける。
- ◆ 医行為は、水準によっては指導医の指導のもと実施する。
- ◆ 患者、家族に対する病状説明や治療方針の話し合いなどにも参加する。
- ◆ 病棟を離れる場合は、指導医の許可を得る。
- ◆ 帰宅時は、必ず指導医に報告し、その日のまとめとチェックをしてもらう。
- ◆ その他「評価に関するマニュアル」に記載の対応を実施する。

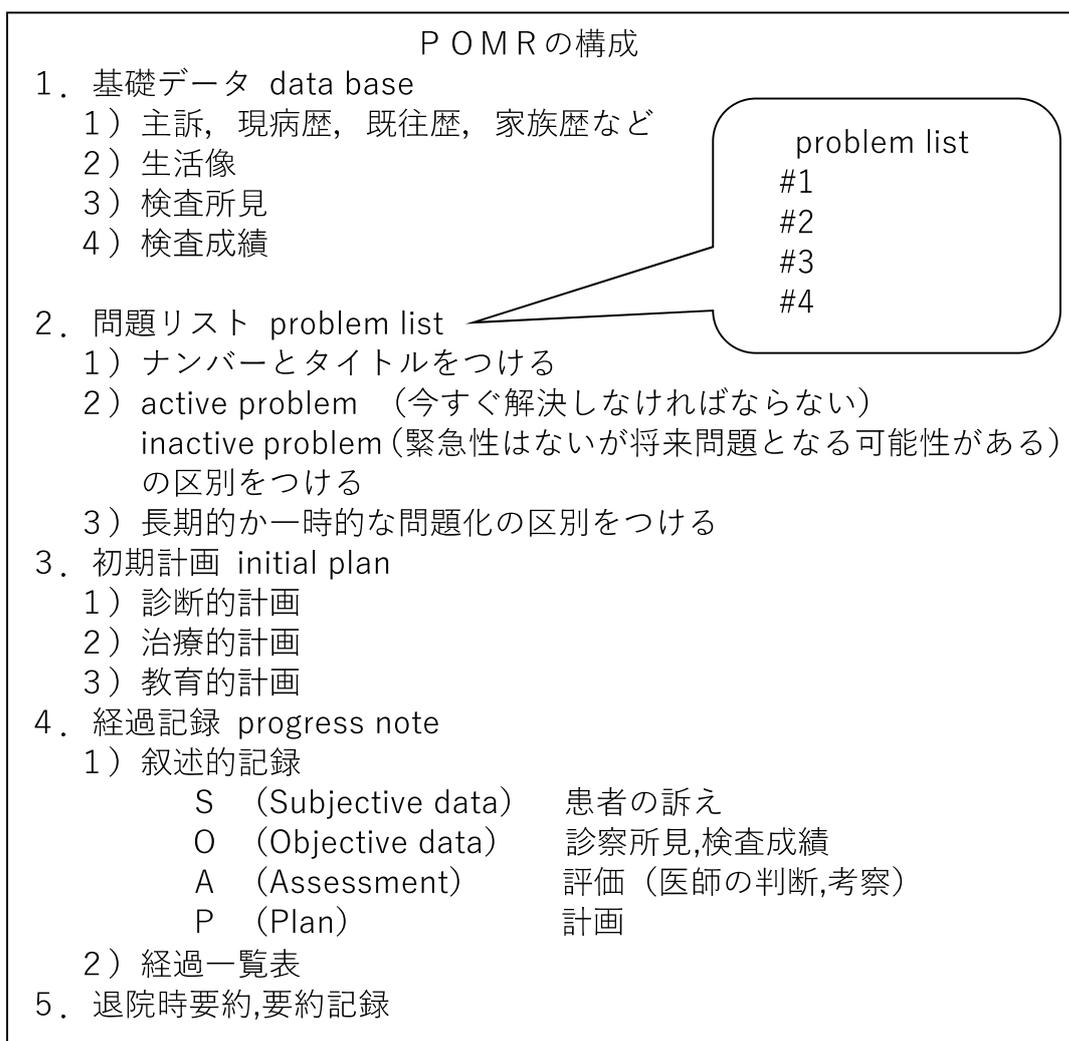
## V. 学生の正規カルテの記載について

### 《カルテの位置づけ》

- ◆ カルテ（診療録）は患者のものであり、かつ公文書である。
- ◆ カルテは医師だけでなく医療チーム全体が使用し利用するものである。
- ◆ カルテは開示を前提に記載する。
- ◆ 学生の正規カルテの記載は、医師の補助者による記録として扱われる（看護師による看護記録と同様）。

### 《カルテの管理》

- ◆ 個人情報（プライバシー）の保護、遵守には格別留意する。
- ◆ カルテの持ち出し、コピーは厳禁である。
- ◆ POMR とは、POS (Problem Oriented System: 問題志向型診療システム) に基づいて系統的・合理的思考に従って診療の過程を記録することである。
- ◆ 第2病日以降の症状、診察所見等は SOAP (Subjective、Objective、Assessment、Plan) 形式で記載する。



## 《カルテの入力》

- ◆ 毎日記載する。
- ◆ 一般的に認められていない略語は用いないこと。
- ◆ 医学的に妥当適切な傷病名を記載する。
- ◆ 指導にあたる医師は、記録内容を監査し、慎重に加筆、訂正等を行う。
  
- ◆ **Don't**      **入力してはいけないこと**

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 医療に不必要な患者のプライバシー</li><li>➤ 患者に対する個人的な感情</li><li>➤ 他の医療者についての無用のコメント</li></ul> |
|---|

## VI. 個人情報の保護について

- ◆ 平成 17 年 4 月 1 日から「個人情報保護法」が全面施行されたことに伴い、本学医学部では、学生は臨床実習に入る前に個人情報保護についての「誓約書」を提出することとする。

## VII. 学生の遵守事項

### 《患者（家族）さんとのコミュニケーション》

- ◆ 初対面時は指導医に紹介してもらい、自分でも自己紹介をすること。
- ◆ 丁寧な言葉遣いで話し、専門用語は使わないこと。
- ◆ プライバシーを遵守すること（守秘義務）。
- ◆ 思いやりの気持ちをもって接すること。
- ◆ 患者さんの言葉に耳を傾けること（傾聴）。
- ◆ 患者さんの身体面、および精神面に配慮すること。
- ◆ 医療面接や身体診察に時間を取りすぎないこと。時間がかかる場合は、了解を得て、数回にわけて行い、患者さんの負担に十分配慮すること。
- ◆ 毎日コミュニケーションをとり、訪室すること。
- ◆ 訪室時間を患者さんと相談して決めた場合は、その時間を厳守する。また、消灯時間を厳守する。

- ◆ 診断や治療方針を学生自ら伝えてはならない。例えば、患者さんから「癌でないでしょうか」と尋ねられたときは、「癌ではないかとご心配なのですね。しかし、私にはよくわからないので、〇〇さんが、ご自分が癌ではないかと心配されていることを指導医の先生に伝えます。」などと答えるようにすること。
- ◆ 患者さんや家族からクレームがあった場合は、速やかに指導医に連絡・報告する。

### 《チームスタッフ等とのコミュニケーション》

- ◆ 時間厳守。
- ◆ 欠席、遅刻、早退の場合は、速やかに指導医に連絡する。
- ◆ 実習中、無断で持ち場を離れたりしないこと。必要があって持ち場を離れたり、帰宅する場合は、指導医に連絡し、許可をもらうこと。
- ◆ 医師、看護師、技師、その他医療従事者に対して挨拶をすること。
- ◆ 主治医や指導医とは毎日連絡・コミュニケーションをとること。
- ◆ 困ったことがあれば速やかに相談すること。

### 《院内外の実習の身だしなみと服装について》

- ◆ 本学生として適切な服装および身だしなみで実習に参加すること。  
⇒ 個人の趣味や特性だけでなく、相手の判断も考慮する。
- ◆ 病院内外での実習において、幅広い年齢や性格の患者さんに対応すること。  
⇒ 「好印象を持ってもらえる身だしなみ」
- ◆ 5つの原則
  1. 清潔
  2. 安全
  3. 機能的
  4. 落ち着きがある
  5. まわりとの調和
- ◆ 5つの原則に則った服装・身だしなみに関するルールを遵守すること。遵守すべきルールは次ページ以降に記載のため、確認すること。

◆ 服装・身だしなみに関するルール

項目	注意点
ヘアスタイル	<input type="checkbox"/> 顔や肩にかからないこと <input type="checkbox"/> 髪の色は地毛の色を基調とし、周囲から浮かない自然な色 <input type="checkbox"/> 長い髪は束ね、まとめてアップにする <input type="checkbox"/> お辞儀をしたときに落ちてくる髪は留める <input type="checkbox"/> 髪留めはシンプルなデザインの物。色は黒、茶などの落ち着いた色を選ぶ <input type="checkbox"/> 奇抜なヘアスタイルはNG <input type="checkbox"/> サイドの髪は耳にかからない、バックの髪は襟に触れない長さ <input type="checkbox"/> もみあげは伸ばさない。ボサボサ禁止 <input type="checkbox"/> フケ、抜け毛がない <input type="checkbox"/> 整髪料でツンツン立たせたり、固めたりする奇抜なヘアスタイルはNG
顔まわり	<input type="checkbox"/> 自然な落ち着いた色のある色を選ぶ <input checked="" type="checkbox"/> アイライン、アイシャドウ、ファンデーション、チーク、口紅など <input type="checkbox"/> まゆ毛は、不自然に剃ったり、抜いたりしない <input type="checkbox"/> 耳の後ろ、首周りを清潔に保つ
服装	<input type="checkbox"/> 名札をつける <input type="checkbox"/> 汚れやシワがない <input type="checkbox"/> 襟を立てない <input type="checkbox"/> ボタンをすべて閉める
爪	<input type="checkbox"/> マニキュアやつけ爪は厳禁 <input type="checkbox"/> 伸ばさない（3mm以内）
時計 めがね アクセサリ	<input type="checkbox"/> 時計 <input checked="" type="checkbox"/> 華美（キラキラ、装飾付）にならない。時刻を合わせる <input type="checkbox"/> 眼鏡 <input checked="" type="checkbox"/> 磨いておく。曇り止めをつければベスト <input type="checkbox"/> イヤリング、ピアス、ブレスレット、指輪 <input checked="" type="checkbox"/> 原則、NG
足もと	<input type="checkbox"/> ストッキング、靴下 <input checked="" type="checkbox"/> 自然な落ち着いた色のある色 <input checked="" type="checkbox"/> 靴下の長さ：足の皮膚が見えない

項目	注意点
足もと	<input type="checkbox"/> 靴 <input checked="" type="checkbox"/> 自然な落ち着きのある色 <input checked="" type="checkbox"/> 汚れがない <input checked="" type="checkbox"/> かかとを踏まない <input checked="" type="checkbox"/> 歩いても足音がしない
香り におい	<input type="checkbox"/> 香りも匂いもしないことがベスト。 <input checked="" type="checkbox"/> 患者さんの治療の妨げにならないように「無臭」がよい <input type="checkbox"/> オーデコロンのほか、ヘアケア製品の香料 <input checked="" type="checkbox"/> かなり気になる患者さんが少なくないので、無臭がベスト <input type="checkbox"/> 体臭・口臭が気になる場合 <input checked="" type="checkbox"/> 意識してケアを心がけると同時に食事に注意 <input type="checkbox"/> オーラルケアも忘れずに。 <input checked="" type="checkbox"/> 歯磨き、マウスウォッシュを心がける
持ち物	<input type="checkbox"/> 筆記用具：シンプルな物が好ましい <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input checked="" type="checkbox"/> 病院の指示に従い持ち込み可能な範囲を守る <input checked="" type="checkbox"/> マナーモードに設定

### 《その他》

- ◆ 医行為は必ず指導にあたる医師の指導・監視のもとで行うこと。
- ◆ 医行為により患者に障害が起こった場合は、直ちに指導医に連絡・報告する。
- ◆ 針刺し等の事故発生時は、直ちに指導医に連絡・報告する。

## VIII. 評価・単位認定の要件

- ◆ 各診療科で実習した項目は、「評価に関するマニュアル」を参照の上、CC-EPOC およびポートフォリオに入力する。
- ◆ 最終日には、学生は CC-EPOC に自己評価、診療科評価、指導医評価を CC-EPOC に入力する。
- ◆ 最終日には、指導医は CC-EPOC 上で学生にコメントを入力する。
- ◆ CC-EPOC などを用いて、臨床実習専門部会による個人評価が行われる。その結果は、卒業の単位認定の合否判定の参考として用いられる。

## IX. 感染事故への対応

- ◆ クリニカルクラークシップにて病棟実習を行う際、さまざまな感染症に暴露されるリスクが想定されるため、日頃予防策を講じる必要がある。
- ◆ 病棟実習中は、手洗いをはじめ標準予防策を実践すること。
- ◆ 感染症患者を受け持った場合は、その感染症に応じた感染経路別予防策を講じる必要があり、この場合、指導医の指示に従うこと。
- ◆ 実習に入る前には、麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペスの抗体検査およびB型・C型肝炎の抗体検査を受けておくこと。抗体を保有していない場合は、臨床実習開始までに該当のワクチン接種をする必要がある。(記録は保健管理センターで保管、小児感染症や結核等に暴露された場合や、針刺事故の対応に必要)
- ◆ 実習に入る前には、胸部 X 線検査を含めた健康診断を受ける必要がある。
- ◆ 排菌性の結核患者に接触した場合は、島根大学医学部附属病院感染制御部の指導を受けて対応すること。
- ◆ 針刺し事故が発生した場合は、直ちに血液を絞り出し、洗浄・消毒を行う。また、目に血液等が飛散した場合は、直ちに流水で目を洗う。その後すぐに指導医または主治医に連絡すること。実際の対応は、医学部実習中の医療事故発生対応フローに準じて行う（別紙フローチャート参照）。

## X. 賠償責任保険加入の勧め

民事訴訟の結果当該事故について法律上の賠償責任が学生にあるとされた場合、学生が責任を問われる場合がある。しかし、学生が賠償責任保険に加入していれば、故意に起こした事故でないかぎり（例えば、病院内を通行中の患者さんに偶然衝突し傷害を負わせた場合）、「国内において、臨床実習中の学生が患者さんに対して行った行為によって、患者さんの身体、生命を害し、また財物を損壊したことにより負担する法律上の賠償責任の全額」が、保険会社より保障される（事故の保障については、事故の状況等を調査した保険会社が決定するため、加入していたからといってすべてに適応されるかどうかは事故の内容によると思われる。）また、このような場合でも、実習の場を管理している病院の経営者も賠償責任を問われる可能性は残る。

「診療参加型臨床実習の実施のためのガイドライン 医学・歯学教育の在り方に対する調査研究協力者会議」より抜粋・一部変更加筆

上記のことより、臨床実習開始前に、全員が賠償責任保険に加入することを勧める。

### 《学生が加入する保険について》

本学医学部では、「学研災付帯賠償責任保険（医学生教育研究賠償責任保険）」に全員加入している。これは、国内外において正課、学校行事およびその往復中で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償するものである。

その他に医学生を対象とした賠償責任保険があるので、賠償責任および感染予防費用（針刺事故、院内感染）の補償を含む保険に加入することが望ましい。

## XI. クリニカルスキルアップセンター備品一覧(看護学科棟 6 階に設置)

分類	品目	目的・概要	数量
頭頸部 神経	頸部リンパ節・甲状腺触診モデル	リンパ節等の触診	1
	鼻腔・咽頭拭い液採取シミュレータ	PCR 検査など鼻腔咽頭への挿入	4
	耳診察シミュレータ(EAR)	耳検査	4
	目診察シミュレータ(EYE)	目検査	4
	眼底鏡(直像鏡)	目検査	15
	耳鏡	医療機器	15
	ペンライト	医療機器	30
	打腱器	医療機器	30
	音叉	医療機器	15
	角度計	医療機器	15
	握力計	医療機器	4
一般診察	血圧測定シミュレータ	評価機能つき血圧測定	5
	水銀レス血圧計	医療機器	40
	浮腫モデル	浮腫のアセスメント	4
	SPO2 測定器	医療機器	30
	心臓病患者シミュレータ(イチロー)	心臓病診察	1
	心疾患シミュレータ(Harvey)	心疾患アセスメント	1
	呼吸音聴診シミュレータ(ラング II)	呼吸音聴診	4
	小児呼吸音聴診シミュレータ(ラング)	呼吸音聴診	1
	乳がん触診モデル	乳がん診察	2
	腹部アセスメントモデル	腹部の触診	5
	フィジカルアセスメントモデル(Physiko)	全身型シミュレータ	4
	ナーシングアンシミュレータ	全身型シミュレータ	1
	多職種連携ハイブリッドシミュレータ “SCENARIO	全身型シミュレータ	2
	(幼児) Sim ジュニア	全身型シミュレータ	1
	(乳児) SimBaby	全身型シミュレータ	1
	(新生児) SimNewB	全身型シミュレータ	1
バイタルサインベビー	乳児診察	4	

分類	品目	目的・概要	数量
処置	縫合手技トレーニングセット	縫合	40
	縫合手技評価シミュレータ	縫合(評価機能付き)	4
	吸引シミュレータ(Qちゃん)	吸引	6
	男性導尿シミュレータ	導尿	6
	女性導尿シミュレータ	導尿	6
	胸腔穿刺シミュレータ	胸腔穿刺	1
	心嚢穿刺シミュレータ	心嚢穿刺	1
	(成人)腰椎穿刺シミュレータ	腰椎穿刺	1
	(小児)腰椎穿刺シミュレータ	腰椎穿刺	1
	経管栄養シミュレータ	経管栄養	4
	膝関節注射モデル	関節注射	1
	点滴静注シミュレータ	静脈路留置	8
	動脈採血シミュレータ	動脈採血	2
	(成人)採血シミュレータ(シンジョー)	採血	25
	(乳児・幼児)採血シミュレータ	採血	各1
検査	超音波トレーニングシミュレータ (ボディーワークス)	超音波検査	1
	心臓超音波シミュレータ (ハートワークス)	超音波検査	1
	膀胱内尿量測定ファントム	超音波検査	1
	腹部超音波ファントム	超音波検査	1
	腹部超音波ファントム(外傷モデル)	超音波検査	2
	肺超音波ファントム	超音波検査	1
	組織損傷超音波ファントム	超音波検査	1
	リウマチファントム	超音波検査	1
	下肢静脈ファントム	超音波検査	1
	12誘導心電計装置	医療機器	4
	超音波診断装置	医療機器	2

分類	品目	目的・概要	数量
蘇生	(成人)SimMan3G	高度機能付き蘇生シミュレータ	1
	(成人)SimMan エssenシャル	高度機能付き蘇生シミュレータ	1
	(成人)レサシアン	心肺蘇生(全身)	30
	(成人)リトルアン	心肺蘇生(全身)	15
	(成人)レサシアン QCPR	心肺蘇生(評価機能付き)	5
	(幼児)レサシジュニア	心肺蘇生(全身)	3
	(幼児)レサシジュニア QCPR	心肺蘇生(全身)	4
	(乳児)レサシベビー	心肺蘇生(全身)	4
	(乳児)ベビーアン	心肺蘇生(全身)	7
	チョーキングチャーリー	窒息解除	5
	AEDトレーナー	AED 操作	20
	(成人)気道管理シミュレータ	気道管理	6
	(乳児)気道管理トレーナー	気道管理	6
	患者モニター	医療機器	6
	除細動器	医療機器	3

## クリニカルスキルアップセンター使用上の注意

クリニカルスキルアップセンターの使用にあたっては、下記の事項に留意願います。

1. クリニカルスキルアップセンターは、看護学科棟 6 階です。
2. 使用する場合は、クリニカルスキルアップセンターへメール  
申し込んでください。
3. 使用を許可した場合は、使用日時および入退出方法をメールにて連絡します。
4. 使用機器の使用前、使用後の状態を確認してください。
5. 機器が破損したり、機器に異常が発生した場合は、すみやかにクリニカルスキルアップセンター  
に届け出てください。なお、不適切使用による破損または重大な過失による紛失の場合は、弁償をして頂くことがあります。
6. 機器の持ち出しは厳禁とします。
7. 使用後は、電源の切断、機器の収納等、機器を現状に復したことを必ず確認してください。
8. 使用後は、照明、空調の電源の確認を行ってください。
9. 退出時は、必ず施錠し、鍵を指定された鍵返却 BOX に入れてください。
10. 入室する時は、ゴム底靴を着用してください。革靴、ハイヒールは厳禁です。
11. 上記の注意事項を守らなかった者は、以後、使用の許可を認めません。

# 臨 床 実 習 Ⅱ

(令和 8. 1. 5～令和 8. 7. 31)

令和8年 臨床実習Ⅱ日程表

45W	46W	47W	48W	49W	50W	51W	52W	53W	54W	55W	56W	57W	58W	59W	60W			61W	62W	63W	64W	65W	66W	67W	68W	69W	70W	71W	72W	
1クール				2クール				3クール				4クール				5クール				6クール				7クール						
1/5 ~ 1/9	1/11 ~ 1/16	1/19 ~ 1/23	1/26 ~ 1/30	2/2 ~ 2/6	2/9 ~ 2/13	2/16 ~ 2/20	2/24 ~ 2/27	3/2 ~ 3/6	3/9 ~ 3/13	3/16 ~ 3/20	3/23 ~ 3/27	3/30 ~ 4/3	4/6 ~ 4/10	4/13 ~ 4/17	4/20 ~ 4/24	4/27 ~ 5/1	5/4 ~ 5/8	5/11 ~ 5/15	5/18 ~ 5/22	5/25 ~ 5/29	6/1 ~ 6/5	6/8 ~ 6/12	6/15 ~ 6/19	6/22 ~ 6/26	6/29 ~ 7/3	7/6 ~ 7/10	7/13 ~ 7/17	7/21 ~ 7/24	7/27 ~ 7/31	
選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	春 休 み	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	
院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習		院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習	院外実習
選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習		選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習	選択実習

臨床実習後  
卒業試験  
OSCE

## 内分泌代謝内科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:30 (月曜日が祝日の場合、火曜日 8:30 にゼブラ棟 2 階に集合)
- (2) 集合場所 第 4 共同研究棟 101

### 2 実習概要 (実習内容)

#### (1) 外来実習

単独で外来初診患者の予診を担当し、医行為 (医療面接や診察を行いプロブレムリストの作成と仮診断) を行う。続いて確定診断に必要な検査計画を立案し、外来担当医の診察に陪席する。診療後、外来担当医よりフィードバックを受け、外来診療に必要な知識、技能を取得する。

#### (2) 病棟実習

常時、複数人の患者を主治医に準じて担当し、日々の診療を行い患者の病態を把握しカルテ記載、検査計画の立案などを行う。上級者の指導を受け、治療行為に必要な知識、技能を習得する。5 年生が担当する入院患者全員を上級実習生として指導的立場で担当し、5 年生に助言・指導を行う。

朝のミーティングでは担当患者について日々の経過を上級医にプレゼンテーションし、病棟回診前カンファレンスでは、1 週間の経過、検査・治療計画の報告、質疑応答などを行い、医療従事者に必要な情報伝達能力および知識・技能を習得する。多職種チームカンファレンスに参加・発言し多職種連携に医師として求められるスキルを習得する。時間内の内分泌救急疾患/緊急入院患者を上級医と共に担当し、診察・検査計画立案を行い、病態把握に必要な臨床推論能力を取得する。

症例検討会において、司会や症例提示、考察の発表を行う。また、担当患者の中から症例を選び、学会発表に準じたスライド作成とプレゼンテーションを行う。担当症例についての課題を抽出し、病態の理解や治療戦略について英語論文を検索し解釈する。症例検討会、学会発表形式プレゼンテーションでのアウトプットを通し、学会活動や生涯教育に必要な発表能力や情報収集能力を獲得し、エビデンス解釈の仕方や引用が適切であったか形式的評価を受ける。

#### (3) シミュレーターを用いた実習

シミュレーターを用いて、医学教育モデルコアカリキュラムに示されて診断の基本項目について臨床推論技能を取得する。

#### (4) オンライン実習

多大学共同プログラムでは、症例報告英語論文を読みディスカッションを行う。論文読解に能力の獲得と症例に対する理解を深める。

### 3 G I O (一般目標)

内分泌代謝疾患の医療従事に必要な医療技能を習得する。

#### 4 SBO（到達目標）

- (1) 医療面接、診察、検査を行うことができる。
- (2) 診察所見、検査結果を解釈し、問題点を列挙することができる。
- (3) 診断・治療に必要な検査計画を立案することができる。
- (4) (1)～(3)の内容をカルテに記載、プレゼンテーションすることができる。
- (5) 指導医、看護師等の医療従事者に対し、医療の遂行に必要な情報伝達ができる。
- (6) 文献等の医療情報の収取ができる。
- (7) 上級医の役割が理解できる。
- (8) カンファレンスで発言して診療に参加する。

#### 5 スケジュール

曜日	午前	午後
月	オリエンテーション・担当患者割り振り（1週目） 2週目以降 ミーティング（教員） 症例発表予演（3週目）	糖尿病カンファレンス
火	入退院カンファレンス・回診	症例検討会（症例提示・ディスカッション・司会担当） 抄読会（4週間に2回）
水	ミーティング（教員） 外来予診	臨床推論1（4週間に1回） 甲状腺エコー（4週間に2回）
木	ミーティング（教授）	
金	ミーティング（教授） 症例発表（4週目）	臨床推論2（4週間に1回） 多大学共同 NEJM 抄読会（4週間に2回）

担当教員：金崎、野津、小川、高垣、石原、竹谷、他

担当教員や実習内容の詳細については、グループ毎に初日に説明する。

ミーティングでは担当患者のプレゼンテーションを行い、現状の課題や疑問点などに関して教員からフィードバックを受ける。

#### 6 評価法

出席、実習態度、プレゼンテーション、症例検討会、診療記録などを総合して判断する。

#### 7 その他注意事項等

医療従事者（student doctor）である自覚を持つこと。

## 血液内科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 7:50 オリエンテーション、その後抄読会
- (2) 集合場所 みらい棟3階資料室

### 2 実習概要（実習内容）

クリニカルクラークシップによる研修を行う。ただし5年生よりはより専門的な事柄の理解ができることを目標にする。

指導医の指示に従って、組み込まれたチームの一員として、支持された入院患者の準主治医として臨床実習を行う。主治医・指導医の協力の下に、毎日受け持ち患者さんの問診や診察を行い、検査所見などを考察し、プロブレムリストを作成し、それに基づいて受け持ち患者さんの病態や治療方針について理解する。

月～金曜日の朝カンファレンスにおいて、主治医とともに準主治医として所属グループの患者さんについて検査や治療方針について議論に参加し、確認する。その後のグループの回診に同行し、毎日患者を診察、POS方式により診療録に記載をする。またその日の夕方にその日にしたこと、また疑問などを主治医・指導医に報告、質問をする。これらのことを通じて、日々の研修で理解した患者さんの病状や病態について、プレゼンテーションする能力を身につける。

採血、骨髄穿刺、生検、腰椎穿刺、中心静脈ルート穿刺などの検査・手技が行われる場合には、患者への説明同意にも可能な限り参加し、実技を見学し、適応や危険性などについて理解する。また、大学の方針に基づき実技を行う。

チームの一員として薬剤師、看護師とコミュニケーションをとり、その能力についても身につけるように努力する。

### 3 GIO（一般目標）

臨床実習を通して以下の必要な考え方・知識と技術を取得する。

1. 血液疾患・腫瘍患者の診察およびその留意点
2. 血液疾患の診断と治療の考えかたとその実際

### 4 SBO（到達目標）

- (1) 問診、身体所見、検査所見などから総合的な診断を行うことが出来る。
- (2) 病歴徴収を含めた基本的診察法を身につける。
- (3) 検査法の概要を理解し、適応や所見の解釈ができる。
- (4) 末梢・骨髄血液標本から得られる異常所見を理解する。
- (5) 標準的治療法を理解し、適応について判断することができる。

## 5 スケジュール

### 〈1 週目〉

月：午前 抄読会，オリエンテーション  
午後 回診・入院患者カンファレンス（月初めは骨髄移植カンファレンス）  
火：午前/午後 外来見学/病棟実習  
水：午前/午後 病棟実習  
木：午前/午後 病棟実習  
金：午前/午後 病棟実習/レクチャー

### 〈2-4 週目〉

月：午前 抄読会，病棟実習  
午後 回診・入院患者カンファレンス  
火：午前/午後 外来見学/病棟実習  
水：午前/午後 病棟実習  
木：午前/午後 病棟実習  
金：午前/午後 病棟実習 /レクチャー 最終週は総括・評価

（担当教員や実習内容については、担当グループ毎に初日に説明する）

基本的には5年生と同様ですが、希望により画像や骨髄標本などの検鏡の時間を入れることは可能です。また国家試験の対策の相談にも乗ることが出来ます。

レクチャーはいくつかの講義内容から希望のものを選択してもらい、4週中に2回実施します。

外来見学は火曜日の午前中に個別に4週中、1回実施します。

また他にも希望があれば、前もって相談してください。可能な限り希望に沿うようにしたいと思います。

## 6 評価法

診療記録，プレゼンテーション，口頭試問，出席状況，実習態度などを総合的に評価する。

## 7 その他注意事項等

服装，マナーに注意してください。

患者さんのプライバシーの尊重と情報の守秘義務を守ってください。

個人情報に記載されているものは持ち歩かないでください。

病棟のコピー機は業務用ですので私用しないでください。

病棟にある書籍は無断で借用しないでください。借用した場合は必ず返却してください。

臨床実習の目的は、座学では得られない診療技術とそれを通じた考え方を身につける事です。

担当患者以外でも興味がある患者さんの診察は、積極的に申し出てください。

国試対策とは異なり、皆さんの将来の医師としての能力を磨く場です。症例を通じて、知識・技能を点から線，線から面に広げていってください。

# 腫瘍内科

## 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 9:00
- (2) 集合場所 みらい棟 3階 先端がん治療センター教授室

## 2 実習概要（実習内容）

クリニカルクラークシップによる研修を行う。5年生よりは一段階進んだ形で「準主治医」としてがん患者を受け持ち、指導医からマンツーマン指導を受ける。「腫瘍内科学」と「腫瘍内科の実地臨床」について専門的な理解と能力が培われることを目標とする。

指導医の指示に従って、外来及び入院患者の「準主治医」として臨床実習を行う。主治医・曜日担当医・指導医の協力の下に、受け持ち患者さんの問診や診察を行い、検査所見などを考察し、プロブレムリストを作成し、それに基づいて患者さんの病態や治療方針について理解する。主治医と、受け持ち患者さんについて検査や治療方針についてディスカッションする。

又、がん治療（特に、がん薬物療法）のエビデンスと標準治療を理解するために、high impact factor の論文に掲載される、前向き比較第 III 相試験の結果について抄読し、ディスカッションする。

学習したこと、疑問などを指導医に報告し、ディスカッションする。これらのことを通じて、がん患者さんの病状や病態について適切に把握し、診断し、治療法を決定し、実施する能力を身につける。

## 3 GIO（一般目標）

臨床実習を通して以下の必要な考え方・知識と技術を取得する。

1. 固形がん患者の診察および治療（主に化学療法）法の選択
2. 化学療法の実施と副作用のマネジメント
3. 固形がん患者に対するインフォームド・コンセントの在り方
4. がん薬物療法の EBM (Evidence Based Medicine) と実地医療 (Best Practice)
5. 分子標的薬の開発やがんゲノム医療

## 4 SB0（到達目標）

- (1) 問診、身体所見、検査所見などから総合的な診断を行うことができる。
- (2) 検査法の概要を理解し、適応や所見の解釈ができる。
- (3) 固形腫瘍患者の基本的な画像所見を理解する。
- (4) エビデンスに基づいた標準的治療法を理解し、個々の患者の適応について判断することができる。
- (5) 化学療法の実施と副作用のマネジメントを行うことができる。
- (6) 分子標的薬の開発やゲノム医療について理解する。

## 5 スケジュール (2~4 週間)

月：午前	オリエンテーション、患者割り当て 腫瘍内科外来
午後	実習とディスカッション、論文抄読
火：午前	実習
午後	実習とディスカッション、論文抄読
水：午前	腫瘍内科外来
午後	実習とディスカッション、カンサーボード
木：午前	実習
午後	実習とディスカッション、論文抄読
金：午前	実習
午後	実習とディスカッション。まとめ (研修の最後)

がん種別、あるいは、臓器横断的ながん薬物療法のエビデンス、根拠となる英文論文の読み方、治療選択の考え方、治療の実際、副作用マネジメント、分子標的薬の開発やがんゲノム医療などについて学ぶ。

## 6 評価法

出席状況、実習態度、ポートフォリオ、提出レポートなどを総合的に評価する。

## 7 その他注意事項等

服装、マナー、感染防御に注意してください。

患者さんのプライバシーの尊重と情報の守秘義務を守ってください。

感冒症状や発熱などがある時には、必ず指導医に報告してください。

自分が主治医 (担当医) になったことを想定して、積極的に学習しましょう。

不明な点は、いつでも、指導医に聞いてください。

## 消化器内科，肝臓内科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:30  
 (2) 集合場所 B 病棟 7 階カンファレンスルーム

### 2 実習概要（実習内容）

クリニカルクラークシップによる研修を行い，数名の患者さんの診療に参加することを通じて内科系疾患の診断と治療を理解する。

### 3 G I O（一般目標）

内科疾患の診療に必要な知識と技術を習得する。特に消化器疾患の診療に必要な基礎的知識を習得する。

### 4 S B O（到達目標）

- (1) 毎朝モーニングラウンドを行い，主治医にレポートできる。
- (2) メディカルインタビュー，基本的診察法を身につける。
- (3) 同時に数種類の疾患の診断，治療計画をたてることができる。
- (4) 自分で診療録を記載することができる。
- (5) 消化器疾患に用いる代表的な薬剤の作用，副作用を述べることができる。
- (6) 内視鏡検査，レントゲン，CT等画像検査を読影することができる。
- (7) 超音波検査を行うことができる。
- (8) 消化器疾患の病態変化を理解し説明できる。
- (9) 主な消化器疾患の病因，病態，症状，診断，治療，予後，再発予防について解説ができる。

### 5 スケジュール（対面）

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	朝カンファ				
9:30-11:00	内視鏡検査介助 (上部) or 超音波実習		病棟実習 (5年生の症例 発表サポート)	内視鏡検査介助 (上部) or 超音波実習	
11:00-13:00	病棟実習 + 昼休憩				
13:00-16:00	内視鏡治療介助	肝臓穿刺治療 介助	病棟実習 (5年生の症例 発表サポート)	症例検討会 (5年生の発表 サポート)	内視鏡検査介助
16:00-17:00	症例検討会	病棟実習			診療グループカンファレンス

- ・上記を1週間の実習スケジュールとし4週間実習の場合は4週間おこなう。
- ・フレキシブ実習の場合は上記を1週間単位の実習とし，実習期間に応じて対応する。
- ・入院実習では担当患者のラウンド，および検査や治療方針の立案に関わる。
- ・月曜と金曜の夕方カンファレンスでは，担当患者の現状をプレゼンする。

## 6 スケジュール（オンライン）

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	オリエンテーション				
9:30-12:00	腹部診察 レクチャー	模擬症例検討会 または自習	自習	超音波検査と治療に関する レクチャー	外来見学 内視鏡見学 (上部) 超音波見学
13:00-17:00	早期胃がんの内視鏡治療に関する レクチャー または 模擬症例検討会	肝疾患の検査と治療に関する レクチャー または 模擬症例検討会	内視鏡検査と治療に関する レクチャー	模擬症例検討会 (5年生と合同)	国家試験対策の 実践 または自習

- ・上記を1週間の実習スケジュールとし4週間実習の場合は4週間おこなう。
- ・フレキシブ実習の場合は上記を1週間単位の实習とし、実習期間に応じて対応する。
- ・模擬症例を一人一例受け持ち、症例検討会でプレゼンテーションする。

## 7 評価方法

カルテおよびインタビューテスト

さらに実習中の各教員による評価（チェックリストの携帯）

## 8 その他の注意事項

- (1) 患者さんの情報の守秘義務を、医師としてのマナーを守ってください。
- (2) 研修医と同様に扱います。医師と同様の自覚をもって実習に参加してください。
- (3) 毎日出席を取ります。事前連絡のない遅刻、欠席は単位を認定しません。
- (4) 欠席日数に応じて代替実習日を設けることがあります。

## 脳神経内科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 月曜～木曜 8:00 金曜 9:00
- (2) 集合場所 B 病棟 5 階カンファレンス

### 2 実習概要（実習内容）

クリニカルクラークシップによる指導を基本とする。学生は入院患者（1～2 名程度）を担当し、医療チームのメンバーの 1 人として行動する。クラークシップは、文字どおりクラーク（秘書）として医療スタッフと協力することで、病院業務から患者管理まで幅広く医療の実際を、4 週間かけて経験できることを目標とする。採血、腰椎穿刺、心電図、脳波、筋電図、CT、MRI、リハビリテーションなどを実際に施行または見学する。担当教員及び主治医がマンツーマンで指導し、習熟度については最終週金曜日に症例プレゼンテーションレポートで評価し、学生にフィードバックする。

### 3 G I O（一般目標）

神経疾患について理解するために、それらの概念、病因、病態生理、疫学、臨床所見、検査所見、診断、治療、予後について基本的知識を整理し、診療技術を習得する。

### 4 S B O（到達目標）

- (1) クリニカルクラークシップを通じて、診断から治療までを考え、問題解決する能力を身につける。
- (2) 症例に関連した文献検索法を習得し、英語文献の読解力を向上させる。
- (3) メディカルインタビュー、神経学的診察法を身につける。
- (4) 難病患者さんの立場に立った医師の役割を理解する。
- (5) 基本的な手技の実施または見学をする。

## 5 スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
担当教員：長井、林、有竹、岩佐、金井、青木、大森、田部井、松本、片岡					
8時	朝カンファ 場所：B5 カンファ室 ⇒オリエンテーション	朝カンファ 場所：B5 カンファ室	朝カンファ 場所：B5 カンファ室	朝カンファ 場所：B5 カンファ室	
9時		外来見学（6年） （教授）	脳卒中レクチャー （林） 場所：B5		神経カンファ 学生プレゼン 場所：B5 カンファ室
10時		外来見学（6年）	教授回診 5-6年生 場所：A5		
11時		外来見学（6年）			回診 症例検討会など
12時					回診終了後 総括（青木、他）
13時					
14時					
15時					
16時					
17時					

- ・ 空欄の部分は病棟実習やカルテまとめ
- ・ 6年生は原則4週間すべて病棟実習です。
- ・ 教授回診は6年生さんは4週間の実習のうち最低一回は参加してください。
- ・ 救急外来の見学希望などあれば個別に対応しますのでご相談ください

## 6 評価法

基本的到達目標の達成度の評価：口頭試問，レポート，出席状況，実習態度  
レポートは，与えられたテーマについての考察を，文献を踏まえて作成すること

## 7 その他注意事項等

- ・ 服装，マナーに注意。患者さんへの感謝・心配りとプライバシーの厳守。
- ・ 患者さんのベッドサイドには教科書など参考図書，カバンを持ち込まないこと。
- ・ 服装は襟付きのシャツに白衣，または。ケーシー型白衣とする。  
（医療用であっても「サンダル」は禁止）
- ・ ネームプレートの着用
- ・ 時間厳守
- ・ 患者さんの情報が漏れないように注意する。

## 膠原病内科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 月・金：8:30、水：9:30、火・木：8:45
- (2) 集合場所 月曜火曜 AB棟5階カンファレンスルーム  
水～金曜 AB棟4階カンファレンスルーム

### 2 実習概要 (実習内容)

クリニカルクラークシップによる指導を基本とする。担当教官と学生1対1～2名で、担当教官と共に病棟、外来を受け持つ。

入院時の検査、治療計画、治療中のマネージメントなどを主治医と相談しながら行うことで実践的な臨床の力を身につける。また回診カンファレンスでは受持患者さんの紹介を行い、病歴や検査所見などをまとめて、発表する能力を身につける。入院患者のプロブレムをみることで、膠原病だけでなく、糖・脂質・骨代謝、感染症、全身臓器の評価を行い総合内科的な見方も養う。毎日カルテに患者の状態、問題点、評価、計画を記入し、病態の把握と問題解決能力を身につける。

担当教官の外来で一緒に患者を診て、問診、診察などを通じて、鑑別診断、検査治療計画をつくる能力を身につける。

### 3 GIO(一般目標)

膠原病および膠原病類縁疾患について理解するために、それらの概念、病因、病態生理、疫学、臨床所見、検査所見、診断、治療法、予後について基本的知識を整理し、技術を習得する。また、免疫抑制状態にある患者で注意すべきこと、合併症などを通じて内科学全般の学習をする。

### 4 SBO(行動目標)

- (1) クリニカルクラークシップを通じて、診断から治療までを考え、問題解決する能力を身につける。
- (2) 救急患者さんに対して基本的なプライマリーケアができる。
- (3) 症例に関連した文献検索法を習得し、英語文献の読解力を向上させる。
- (4) メディカルインタビュー、基本的診察法を身につける。
- (5) 難病患者さんの立場に立った医師の役割を述べる。
- (6) 患者とのコミュニケーションをとる能力を身につける。
- (7) 看護師、薬剤師、検査技師等とのチーム医療の必要性を学ぶ。
- (8) 5年生に分かりやすく教えることで、自身の勉強とする。

## 5 スケジュール

### (対面実習)

曜日	担当教員	8:30	12:30	13:30
月	本田	カンファレンス病棟実習		病棟実習
火	森山	カンファレンス病棟実習		病棟実習
水	高野	カンファレンス回診		14:30 抄読会
木	鈴木	カンファレンス病棟実習		病棟実習
金	一瀬	カンファレンス病棟実習		外来／病棟実習

8:30 に病棟にて担当教員にその日のスケジュールを確認してください。

4週間のうち1回水曜日の抄読会で英文論文を紹介する。

### (オンライン実習)

オンライン実習の場合、実際の患者さんの代わりに提示された仮想症例について、検討してもらいます。

曜日	担当教員	
月	本田	仮想症例提示→学習しまとめる
火	森山	課題についてまとめたものを発表→新しい課題について学習しまとめる
水	高野	課題についてまとめたものを発表→新しい課題について学習しまとめる
木	鈴木	課題についてまとめたものを発表→新しい課題について学習しまとめる
金	一瀬	課題についてまとめたものを発表→新しい課題について学習しまとめる

4週間のうち1回 テーマを決めて、5年生にレクチャーをする。

4週間のうち1回水曜日の抄読会で英文論文を紹介する。

## 6 評価法

担当症例の発表検討会における発表や質問  
実習態度

## 7 その他注意事項等

服装，マナーに注意

プライバシーの厳守

ネームプレートの着用

聴診器持参

実習の予定などは Microsoft Teams で連絡します。

抄読会に参加するときは Teams に論文を掲載しますので，PC/タブレット等を持参してください。

実習期間は Microsoft Teams で連絡します。

## 循環器内科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:30  
 (2) 集合場所 ICU, オンラインの場合は集合なし

### 2 実習概要 (実習内容)

クリニカルクラークシップによる研修を行い、診療チームの一員として患者の診察や検査に参加し、循環器病学の診断と治療を理解する。  
 オンラインの場合は、模擬症例を用いて学習を行う。

### 3 G I O (一般目標)

担当症例の主治医と一緒に実地医療の基本を体験し、臨床の現場で求められているものが何かを体得する。  
 オンラインの場合は、模擬症例を用いて学習を行う。

### 4 S B O (到達目標)

- (1) 毎朝のカンファレンスでショートプレゼンテーションのスキルを身につける。  
 (2) 様々なカンファレンスに参加し、診療方針の決定に加わる。  
 (3) 基本的診療法を身につける。  
 (4) 心電図が判読できるようになる。  
 (5) カテーテル検査や治療に参加し、循環器診療に必要な基本的手技を学ぶ。  
 (6) 心エコー図検査を行い、基本的な断面が描出できる。

### 5 スケジュール (対面)

曜日	集合時間	場所	午 前	午 後
月	8:30	ICU	カンファレンス, 病棟実習, 心カテ, 心エコー, 外来	心カテ, 心エコー, 病棟実習
火	8:30	ICU	カンファレンス, 病棟実習, 心カテ, 心エコー, 外来	カンファレンス, 回診, 抄読会
水	8:30	ICU	カンファレンス, 病棟実習, 心カテ	病棟実習
木	8:30	ICU	カンファレンス, 病棟実習	心カテ, 病棟実習
金	8:30	ICU	カンファレンス, 病棟実習, 心カテ	病棟実習

スケジュール（オンライン） 状況次第で変更の可能性あり以下は一例

曜日	集合時間	場所	午 前	午 後
月	8:30	各自オンライン 可能場所	ミニレクチャー	模擬症例
火	8:30	各自オンライン 可能場所	ミニレクチャー	ミニレクチャー，抄読会
水	8:30	各自オンライン 可能場所	ミニレクチャー	模擬症例
木	8:30	各自オンライン 可能場所	ミニレクチャー	ミニレクチャー
金	8:30	各自オンライン 可能場所	ミニレクチャー	模擬症例

# 腎 臓 内 科

## 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 9:30 オリエンテーション（月曜日祝日の場合、火曜日 9:30）
- (2) 集合場所 第二研究棟 4 階 腎臓内科教員室(医局)（第二研究棟 4 階）  
\*火-金曜日は、8:30 に、A4 病棟集合（病棟回診）

## 2 実習概要（内容）

### (1) クリニカルクラークシップ

目標：病棟・外来において、医療チームの一員として、医師、看護師、栄養士、臨床工学技士、などの医療スタッフと協力し、実際の腎疾患の医療を経験する。

病棟：担当教員および主治医の指導のもと、各自入院患者 1 名を担当する。問診、診察、検査（採血、超音波、腎生検など）、手技（血液透析、腹膜透析など）を実際に行い、介助、または見学する。また、必要な検査・治療の計画を含め電子カルテに記載を行う。病棟回診、症例プレゼンテーション、総括で、習熟度に関して学生にフィードバックをおこなう。

外来：初診患者の問診および診察、専門外来の見学を通じて、鑑別診断を考え、検査・治療計画を作成する技能を習得する。

### (2) ミニマムエッセンスレクチャー

担当教員によるミニマムエッセンスレクチャーにより、最新の知見を含めた、急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎、腎代替療法（血液透析、腹膜透析）などに関する包括的な知識の習得、整理を行う。

## 3 GIO（一般目標）

病棟あるいは外来診察で患者さんを診ることにより、腎疾患診療に必要な基本的知識・技術を習得する。

## 4 SBO（到達目標）

- (1) Problem Oriented System（POS）を理解し、POS にもとづく診察の進め方と診療録の記載方法を習得する。
- (2) カンファレンスや回診を通して、プレゼンテーションスキルを磨く。
- (3) コアカリキュラムに沿って、臨床に則して腎疾患を理解する。
- (4) 患者、医療スタッフと効果的なコミュニケーションを取る技術を身につける。
- (5) 看護師、栄養士、臨床工学技士、薬剤師、等とのチーム医療の重要性を学ぶ。
- (6) 症例に関連した文献検索法を習得し、最新の医療情報の収集をおこなう。

## 5 スケジュール

曜日	午 前	午 後
月曜日	9:30 オリエンテーション（医局）＊ 9:40 レクチャー（医局） 10:20 担当症例の割りあて・概説（医局）＊ ＊最初の週のみ	11:30 レクチャー （みらい棟2階・総合診療センター）
	病棟実習	
火曜日	8:30 回診（A4病棟） 11:30 外来実習（外来11診）	13:30 レクチャー（医局） 15:00 レクチャー（栄養相談室）
	病棟実習	
水曜日	8:30 回診（A4病棟） 10:00 血液浄化治療部（病院2階）・透析見 学	15:00 レクチャー（医局）＊ 症例プレゼンテーション準備 ＊最初の週のみ
	病棟実習	
木曜日	8:30 回診（A4病棟） 11:00 症例プレゼンテーション（医局）	13:30 腎生検（A4病棟）第1・3・5週 17:00 カンファレンス・抄読会（医局）
	病棟実習	
金曜日	8:30 回診（A4病棟） 9:30 総括（医局）	13:00 外来実習（外来11診）
	病棟実習	

担当教員：神田，吉野，岡，花田，小田川，平井，他

レクチャー・総括の時間は、担当医師の都合によって変更になることがありますので、実習初日に予定表を配ります。

## 6 評価方法

- (1) 診療録記載内容
- (2) 総括・課題のプレゼンテーション内容
- (3) 実習態度、出席状況

## 7 その他の注意事項

- (1) 医療従事者としての自覚をもち、服装、マナーに注意してください。
- (2) 常にネームプレートの着用してください。
- (3) 聴診器を持参してください。
- (4) 患者情報の守秘義務を厳守してください。
- (5) 個人情報の扱いには最大限の注意を払ってください

## 呼吸器・臨床腫瘍学（呼吸器・化学療法内科）

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 10:00（月曜祝日の場合、火曜 10:00）
- (2) 集合場所 みらい棟 2階 共通カンファレンス室  
※時間・場所を変更することがあるため、必ず事前に Moodle を確認すること  
※その後は実習スケジュールに沿う

### 2 実習概要（実習内容）

クリニカルクラークシップの Advanced Course として、内科系で最も広い範囲に疾患が存在する呼吸器内科、臨床腫瘍学について、「診療参加型臨床実習」として、student doctor が実際の診療チームに参加しその一員として診療業務を担当することによって、臨床医としての基本的な姿勢を習得する。指導医によるセミナー形式による知識の整理、疑問点の解決、苦手領域の克服をはかる。また、シミュレーターを用いて診察、検査手技の習得を図る。

### 3 GIO（一般目標）

- (1) 呼吸器病学を中心に、臨床腫瘍学、感染症学、老年医学の臨床を体験学習する。
- (2) 受け持ち患者の医療情報の収集、診断と治療計画ができる。
- (3) 基本的な臨床手技について学び実践し、指導医のアシストを行う。
- (4) モデルコアカリキュラムに沿い、疾患の理解を深める。

### 4 SB0（到達目標）

- (1) ベッドサイドや外来診療で患者を診ることにより、呼吸器病の診断学を取得する。
- (2) カンファレンス、スライド発表を通じてプレゼンテーションスキルを磨く。
- (3) チーム医療における自らの役割を理解し、チームの一員として診療を行うことができる。

5 スケジュール（一部、オンラインもしくはオンデマンドも併用することがある）

曜日	担当教員	午前	午後
月	スタッフ 医局員	(初日) 10:00 オリエンテーション (2週目以降) 8:30 モーニングカンファレンス, 気管支鏡カンファレンス 指導医と病棟回診, 病棟・外来実習 チームカンファレンス	病棟・外来実習 気管支鏡検査 (胸腔鏡検査) レクチャー シミュレーション学習
火	スタッフ 医局員	8:30 モーニングカンファレンス 指導医と病棟回診, 外来実習 レクチャー ベッドサイドティーチング (症例検討) (最終週) 症例発表会	病棟・外来実習 気管支鏡検査 レクチャー
水	スタッフ 医局員	8:30 モーニングカンファレンス 指導医と病棟回診, 病棟・外来実習	病棟・外来実習 気管支鏡検査
木	スタッフ 医局員	8:30 モーニングカンファレンス 指導医と病棟回診, 病棟・外来実習	14:00 呼吸器カンファレンス 病棟・外来実習
金	スタッフ 医局員	8:30 モーニングカンファレンス 指導医と病棟回診, 病棟・外来実習 レクチャー (最終週) 総括	病棟・外来実習 レクチャー 気管支鏡実技実習

6 評価法

- (1) 出席, 実習態度
- (2) 診療録, ポートフォリオ等の記載内容
- (3) カンファレンス, スライド発表による症例プレゼンテーションなどを総合して判断する。

7 その他注意事項等

医療従事者 (student doctor) としての自覚を持つこと。  
実習中に不明な点があれば必ずその場で解決すること。

# 皮膚科

## 1 集合時間・集合場所

外来グループと病棟・手術グループに分かれて実習を行う。定員の4人の場合は、各グループ2人ずつに分かれ、各人が外来グループと病棟・手術グループをそれぞれ2週間ずつ実習する。実習の割り振り（毎週交互に入れ替えるか、連続して実習を行うか、グループのメンバーを固定するか）を相談の上で決定し、実習開始前週の金曜日までに連絡すること。

(1) 集合時間 初日オリエンテーション 8:30

2日目以降 外来グループ 8:45

病棟・手術グループ 13:30 金曜日手術 8:30

(2) 集合場所 オリエンテーション、説明会、回診・カンファ、病理カンファ（第二研究棟4階皮膚科医局）、外来実習、褥瘡回診（皮膚科外来）、手術実習（手術室）

## 2 実習概要

(1) 外来実習：

- ① 外来初診患者の予診とカルテ記載
- ② 検査、抜糸、皮膚処置、エコーの補助あるいは見学
- ③ 紹介医への返事の下書き
- ④ 5年生の予診の指導

(2) 病棟実習：入院患者を担当し、毎日ベットサイドで診察する。検査、処置、手術に参加する。回診中の処置に参加する。

(3) 手術実習：周術期の患者を担当する。手洗いをして手術の補助を行う。抜糸や表層縫合を経験する。

(4) 回診・カンファランス(共通)：外来患者、病棟患者のプレゼンテーション

(5) 褥瘡回診

(6) 病理カンファランス

## 3 SBO（到達目標）

(1) 医療面接にて必要な情報を的確に収集することができる。

(2) 病歴と皮膚所見から病態を考察できる。

(3) 基本的な皮膚疾患の検査（真菌検査、パッチテスト、プリックテスト、エコー、ダーモスコピー）を習得する。

(4) 基本的な皮膚科手技（抜糸、創傷処置、表層縫合など）を習得する。

(5) 担当患者の皮膚疾患についてEBMを理解し、関連領域の診療ガイドラインを参照できる。

#### 4 スケジュール

##### 外来グループ（例1，3週）

曜日	8:30	12:30	13:30	17:00
月	オリエンテーション（1週目） 外来実習			
火	外来実習			
水	外来実習			
木	外来実習	説明会	回診・カンファランス	
金	外来実習			

##### 病棟・手術グループ（例2，4週）

曜日	8:30	12:30	13:30	17:00
月	オリエンテーション（1週目）			病棟実習，手術実習
火				病棟実習，褥瘡回診，病理カンファ
水				病棟実習
木		説明会	回診・カンファランス	
金	手術実習・病棟実習			

\*白抜きは自習時間

#### 5 評価法

CC-EPOC とポートフォリオにて，出席，実習態度，医療面接，身体診察，基本的技能，カルテ記載，プレゼンテーション，問題解決能力，情報収集能力を総合的に評価する。

#### 6 その他の注意事項等

- (1) 服装に注意する。
- (2) 担当患者の状態に気を配り，礼意を失しないよう心がける。
- (3) メモ用紙を持参のこと。
- (4) 受け身な態度ではなく，積極的な態度を歓迎する。

## 形成外科

### 1 集合時間・集合場所

〈対面実習〉

- (1) 集合時間 9:00
- (2) 集合場所 病院二階形成外科外来

※週の初日に1週間の予定を伝達しますので、必ず出席してください。

### 2 実習概要（実習内容）

〈対面実習〉

- (1) 外来実習：陪席係と処置係を経験する。陪席係は外来初診患者の医療面接、プレゼンテーション、診察と説明、検査処方を経験する。処置係は患者の検査、処置、小手術を経験する。美容外科の理論と実際を経験する。
- (2) 病棟実習：入院患者を主治医と共に担当し、診察、検査、治療を経験する。
- (3) 手術実習：手術に参加し、皮膚縫合を実際に行う。

### 3 SB0（到達目標）

〈対面実習〉

- (1) 医療面接にて、必要な情報を的確に収集することができる。
- (2) 病歴やレントゲン等の所見から病態を考察できる。
- (3) 顔面CTや下肢血流検査から治療方法を立案できる。
- (4) 基本的な外傷処置と縫合方法を習得する。

### 4 スケジュール

〈対面実習〉

曜日	担当教員	9:00	12:30	13:30	16:30
月	林田、須田	外来実習			病棟実習、皮膚縫合の練習
火	林田、須田	外来実習			病棟実習、血管吻合の練習
水	林田、須田	カンファレンス			顔面レントゲンの読影、手術
木	林田、須田	外来実習			手術、外傷処置の実技指導
金	林田、須田	手術			手術、総括

### 5 評価法

〈対面実習〉

出席、実習態度、医療面接、身体診察、基本的技能、カルテ記載、プレゼンテーション、問題解決能力、情報収集能力を総合的に評価して判定する。

## 6 その他注意事項等

### 〈対面実習〉

- (1) 白衣，メモ用紙を持参すること。
- (2) 担当患者の状態に気を配り，礼意を失しないこと。

可能な限り規則正しい生活を送って，実習に取り組んでください。臨床実習においては、倫理の認識が重要なので、服装や髪型などを特に気をつけてください。

# 小 児 科

## 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間                    8 : 25  
 (2) 集合場所                    C病棟 5階カンファレンスルーム

## 2 実習概要（実習内容）

- (1) クリニカルクラークシップによる指導とスモールレクチャーを行う。  
 (2) 抄読会および国試対策，クリニカルクエスチョンへの対応などを行う。  
 (3) 学内外の小児科診療現場において，患者・家族に対する接し方を学ぶ。  
 (4) 小児科の細分化した各専門分野の診断，検査，治療を見学し，理解する。  
 (5) 予防接種や乳幼児健診，発達障害への検査などの小児保健事業を見学し，理解する。  
 (6) 入院患者さんを担当する場合、原則、2-4週間間隔で受け持つ。

## 3 スケジュール（対面）

	月	火	水	木	金
8:30	健康確認 朝カンファレンス	健康確認 朝カンファレンス	健康確認 朝カンファレンス 抄読会	健康確認 朝カンファレンス	健康確認 朝カンファレンス
9:00	オリエンテーション	病棟外来実習	病棟外来実習	病棟外来実習	病棟外来実習
10:00	病棟外来実習	小児保健実習	小児保健実習	小児保健実習	小児保健実習
11:00					
12:00					
13:00	スモールレクチャー	カンファレンス回診	スモールレクチャー	スモールレクチャー	スモールレクチャー
14:00	病棟外来実習		病棟外来実習	病棟外来実習	病棟外来実習
15:00	小児保健実習		小児保健実習	小児保健実習	小児保健実習
16:00					

## スケジュール（オンラインの場合）

	月	火	水	木	金
8:30	健康確認 朝カンファレンス	健康確認 朝カンファレンス	健康確認 朝カンファレンス	健康確認 朝カンファレンス 抄読会	健康確認 朝カンファレンス
9:00					
10:00	レクチャー	レクチャー	レクチャー	レクチャー	
11:00					週間サマリー
12:00					
13:00	スモールレクチャー	カンファレンス回診	スモールレクチャー	スモールレクチャー	
14:00					
15:00		スモールレクチャー			
16:00					

#### 4 評価

- (1) 各担当教員が毎日の実習を評価する。
- (2) 実習最終日に、各自が実習の成果を発表して、討論やサマリーを行う。

#### 5 その他注意事項等

臨床実習に関しては、自主的・主体的に行動し、受け身としないこと。

## 消化器・総合外科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:15
- (2) 集合場所 臨床研究棟1階 消化器・総合外科カンファレンスルーム

### 2 実習概要（実習内容）

上部・下部消化管、肝胆膵、小児外科グループのいずれかに所属し（4週間の中で、1～4グループ）、外来・入院患者の診療（予診、診察、検査、手術、回診）にあたる。また、5年生の臨床実習の指導を行う。手術手技トレーニング、抄読会、カンファレンスにも参加する。

### 3 GIO（一般目標）

患者の予診、診察、検査を通して外科疾患のたどしい診断と適切な治療方針を立案し、疾患に対する手術内容、基本的な外科手技を理解する。

### 4 SBO（到達目標）

- (1) 予診を的確にとることができる。
- (2) 診察を的確に行うことができる。
- (3) 外科疾患の適切な検査法、治療法が理解できる。
- (4) 清潔・不潔の概念を理解し、手術時手洗いができる。
- (5) 局所解剖と手術手順が理解できる。
- (6) 鏡視下手術を含む外科手術の基本手技を身につける。
- (7) 周術期管理の理解と実践ができる。

### 5 スケジュール

第1週～第4週

曜日	担当教員	8:15	9:00	12:30	13:30	17:00
月	日高 山本	術前術後 カンファ	病棟回診 手術見学・参加			病棟実習 手術見学・参加
火	松原 田中	症例カンファ・ 教授回診	病棟回診・外来			手術見学・症例検討/臨床講義
水	谷浦 梶	術前術後 カンファ	病棟回診 手術見学・参加			病棟実習 手術見学・症例検討
木	石橋 石飛	MM カンファ	病棟回診 手術見学・参加			外科手技実習 (消化器・総合外科カンフ)
金	中村 真子 岸本	術前術後 カンファ	病棟回診 手術見学・参加			症例検討/臨床講義

## 6 評価法

出席状況，実習態度，観察記録などで総合的に評価する。

## 7 その他注意事項等

\*時間厳守・白衣着用・聴診器持参・服装・態度に注意する。

\*病気等で休む場合は連絡すること。

\*学生には，月曜日朝のカンファレンス後に指導医を紹介する。

## 循環器外科（心臓血管外科）

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:30
- (2) 集合場所 臨床研究棟1階 循環器外科学カンファレンス室

### 2 実習概要（実習内容）

実習前に本人の希望を調査し、カリキュラムとして、①臨床実習の場で成人心臓手術について5年次よりより深く習得するコース、②小児心臓血管外科について深く学ぶコースと③専門書や最新の心臓血管外科論文からより深く、新しい知見を習得するコースに分けて実習する。

#### 1. 成人心臓手術コース

- (1) 術前検査による手術リスク評価，家族・患者への術前手術説明，手術，ICU・6B病棟での術後管理に指導医とともに参加し，その流れを経験する。
- (2) 成人心臓・血管手術の手順・流れを理解した上で，チームの一員として手術に参加する。
- (3) 術後管理について，チームの一員として治療について学ぶ（ICU入室から退院まで）。
- (4) 緊急手術に参加する（希望者）。

#### 2. 小児心臓手術コース

- (1) 小児心臓疾患について病態生理を理解し、また術前カンファレンスを通じて手術の手順・流れを理解した上で、チームの一員として手術に参加する。
- (2) 術前術後の診察を通じて、小児に特徴的な所見や診察について学ぶ。
- (3) 小児心臓関連の国家試験過去問や小児循環器カンファなどを通じて、代表的なまた特徴的な血行動態などについて理解を深める。

#### 3. 探究コース

- (1) 心臓血管外科医師と相談のうえ、疾患や手術方法など興味のあるものを決定し、それについて、医師のアドバイスの下専門書や論文から知見を得て、深く理解する。

これらのコースについては、診療状況によるが期間（1～4週）やコース選択については希望を調査し考慮する。

### 3 GIO（一般目標）

循環器疾患の外科治療の適応・手術手技／手順・術後管理を理解する。また臨床を通してや文献などをとおして、その流れを理解する。

### 4 SBO（到達目標）

- (1) 疾患・手術について理解する。
- (2) 手術の手順・流れを理解した上で、手術チームの一員として手術に積極的に参加する。

5 スケジュール

8:30

16:00

17:00

月	手術/ICU・病棟見学	循環器合同カンファ 適宜講義	(病棟回診)
火	手術	小児心臓外科手術カンファ	病棟回診
水	小児心臓手術		
木	手術	小児循環器合同カンファ	
金	手術や講義	説明会	病棟回診

おおよそのスケジュールは上記の通りだが、実際は手術予定の変更などあり、最終的に前もっての実習内容や集合時間の連絡によって決定いたします。

。

6 評価法

臨床実習現場における態度や口頭試問，出席状況などで総合的に評価する

7 その他注意事項

- (1) 病院実習における患者への態度，言葉遣い，服装に十分注意する。特に清潔（手，爪，髪の毛）には気をつける。
- (2) 白衣，聴診器持参。
- (3) 時間厳守。

## 呼吸器外科

呼吸器は生命予後にかかわる重要なバイタル臓器です。診療に参加しながらその重要性を認識し、自らの臨床キャリアに役立ててください。

### 1 集合時間・集合場所（初日）

月曜日 8時15分・呼吸器外科オフィスラウンジ（病院2階ラバン横）

火曜日（月曜祝日の場合）8時・呼吸器外科オフィスラウンジ

### 2 実習概要（実習内容）

(1) 初期研修医と同程度以上に患者に対する医療サービスに責任を持つ。

(ア) 5年生と同等：採血、尿道カテーテル挿入、縫合、結紮など。

(イ) 5年生以上：開胸（電気メスの使用）、閉胸、肺切除（自動縫合器）

(2) 自主学習時間に手術や予診、プレゼンテーションの予習、準備を行う。

(3) 診療参加型臨床実習のため大部分の時間の使い方は自己裁量とする。

(4) 後輩への指導、教育を適切に行う。

### 3 G I O（一般目標）

呼吸器外科学の診療を通じて生命にかかわる分野特異的な安全な医療に必要な技術、態度、知識を理解し、チームの一員として医療サービスの提供と向上に貢献する。

### 4 S B O（到達目標）

I. 呼吸器外科患者に対して適切に情報を収集し、病態を把握することができる。

II. 患者・患者家族、医療スタッフと適切にコミュニケーションを取り患者情報を共有できる。

III. 手術に参加し、開胸、閉胸を行うことができる。

IV. 手術に参加し、術中のコミュニケーションエラーを防ぐことができる。

V. 初診患者の診療計画を立て、手術適応と術式を判断できる。

VI. ドレーンの抜去を含めた術後管理、退院計画を立てることができる。

VII. 有害事象を発見し適切に対応できる。

VIII. 後輩学生の教育に積極的に参加できる

## 5 スケジュール

	8:30	9:00	14:00	15:00	17:00
月		オリエンテーション、外来・病棟業務 シミュレーショントレーニング			自習・手術予習
火	病棟業務 採血サポート	手術・病棟業務 術後検査評価、ドレーン抜去など			自習 (外来患者確認)
水	病棟業務 採血サポート	回診	外来予診	カンファ レンス	自習・手術予習
木	病棟業務 採血サポート	手術・病棟業務 術後検査評価、ドレーン抜去など			自習
金	病棟業務 採血サポート	外来・手術・病棟業務 術後検査評価、ドレーン抜去など			総括

・オンライン時では病棟業務はなく、Teamsによる外来リモート診察・手術見学を行い、適宜、課題と発表を行います。初日は8時半より Teams でオリエンテーションをします。

## 6 評価法

臨床実習現場またはオンライン授業におけるパフォーマンス評価

## 7 その他の注意事項

- (1) 無断欠席・遅刻により患者診療へ悪影響が生じた場合、再履修とします。
- (2) 手洗いは必ずウォーターレス法で行ってください。
- (3) 個人情報の取り扱いには十分注意してください
- (4) 呼吸器外科オフィスラウンジは自由に使ってください（飲食、スマホ充電可）。
- (5) オンライン時は Teams で音声・画像（常にオン）にてリモートで参加します。服装、背景に留意するようにしてください。リモート外来では白衣を着用してください。

# 整形外科

## 1 集合時間・集合場所

- 月 8:00 整形外科カンファレンスルーム
- 火 9:00 手術室
- 水 9:00 整形外科カンファレンスルーム
- 木 8:00 整形外科カンファレンスルーム
- 金 9:00 整形外科カンファレンスルーム

## 2 実習概要（実習内容） スケジュール表参照

## 3 GIO（一般目標）

- (1) 整形外科の基本的な臨床的知識及び技能を身につける。
- (2) 医師としての基本的な好ましい態度や習慣を身につける。

## 4 SBO（到達目標）

- (1) 外来新患者さんの診察に参加し、望ましい面接法、問診法を学ぶ。
- (2) 病歴の徴収を行い、心理的、社会的な問題点についても評価する。
- (3) 外来診療及び入院診療に参加し、基本的な整形外科的診察及び徒手検査を行う。
- (4) 問診と診察所見から情報を整理し、問題点や今後の診断法を具体的に述べる。
- (5) 身だしなみ、言動などに注意し、患者さんとの信頼関係を築くための基本を学ぶ。
- (6) 医療行為（特に手術室において）を行う際の清潔・不潔の概念を明確にする。

## 5 スケジュール

曜日	担当教員	AM	PM
月	整形スタッフ	外来または手技実習	整形総回診、カンファレンス
火	同上	手術	手術
水	同上	外来または手技実習	
木	同上	抄読会、手術	手術
金	同上	手技実習 症例発表とまとめ（最終週）	

\*整形スタッフ（内尾，山本，山上，今出，門脇，真子，多久和，伊藤，若槻，牛尾，沖田）

## 6 評価法

- (1) 実習中の学力、態度、積極性、協調性などを総合評価する。
- (2) 臨床実習への出席や態度、臨床実習での設問及び総括発表によって行う。

## 7 その他注意事項等

- (1) 第2ラウンドであるので、医学知識の応用を心がけること。何事にも積極性をもって対応し、学ぶことを希望する。
- (2) 手術室では清潔・不潔の概念を明確にすること。
- (3) 集合時間の厳守。

## リハビリテーション科

1. 集合場所： 外来3階リハビリテーション室

集合時間： 9：30

### 2 実習概要

- (1) 「障害」の診断, EBM に基づいた治療計画について学ぶ。
- (2) 国際生活機能分類 (ICF) について学ぶ
- (3) 急性期, 回復期, 生活期のリハビリテーションについて学ぶ。
- (4) 理学療法, 作業療法, 言語聴覚療法の概要について学ぶ。
- (5) リハビリテーション医学におけるチーム医療, チームアプローチを学ぶ。

### 3 GIO (一般目標)

障害の診断, ICF について学習し, 急性期・回復期・生活期リハビリテーションの流れを理解する。

### 4 SBO (到達目標)

- (1) 「障害」の評価ができる。
- (2) ICF について理解する。
- (3) リハビリテーション関連職種の業務を理解する。
- (4) チームアプローチについて理解する。
- (5) 急性期, 回復期, 生活期リハビリテーションの連携について理解する。

### 5 スケジュール

月曜日 午前：オリエンテーション (第1週)、外来

午後：カンファレンス (0：50～)、外来、講義

火曜日 午前：外来

午後：検査 (嚥下造影検査)、ボツリヌス治療、フェノールブロック

水曜日 午前：外来

午後：検査 (嚥下造影検査)、ボツリヌス治療、フェノールブロック

補装具外来 (第1水曜)、講義

抄読会、症例検討会

木曜日 午前：外来、回復期病院見学

午後：検査、講義

総括 (最終週)

金曜日 午前：外来

午後：検査、講義

## 6 課題

担当患者 1 名のレポート作成（障害の診断・EBM に基づいた治療計画を中心にまとめ、提出）  
（最終週の木曜日午後に総括）

## 7 その他注意事項等

- (1) 服装・態度に注意する。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた場合にはオンライン実習を行います。

# 脳神経外科

## 1 集合時間・場所

時間 午前 8:30

場所 外来中央診療棟 1 階 脳神経外科外来ポリクリ準備室。

(※水曜日は時間・場所ともに別途指示)

## 2 実習概要 (内容)

- (1) 手術参加。手術ビデオ研修。
- (2) 回診及びカンファレンスへの参加。
- (3) 補助検査の見学・読影。実習レポート及び関連文献の提出。
- (4) 学習及び教育効果の相互評価。
- (5) マイクロサージャリーの実習 (研究室でのシミュレーション)。

## 3 GIO (一般目標)

将来いずれの専門分野を専攻しようとも、卒後、医療に第一歩を踏み出し、効果的な臨床研修が遂行できるために、脳神経外科領域における基本的な臨床能力としての知識と技能および患者さんに対するマナー、そして医療人としての望ましい習慣を身につける。

## 4 SBO (到達目標)

- (1) 脳神経外科学の診療において必要な検査を計画する。
- (2) 診断・治療に関連した処置や操作について基本的手技を行う。(例えば、消毒・手洗い・ガウンテクニック・脳血管撮影・マイクロスージャリー実習など)
- (3) 患者さん情報を適切に要約し、文献検索などを積極的に活用し提示する。

## 5 スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ポリクリ準備室 集合 患者紹介・資料 説明 手術見学	ポリクリ準備室 集合 症例検討 検査見学	手術見学および 補助実習	ポリクリ準備室 症例発表・討議 血管内治療見学	ポリクリ準備室 抄読会 症例総合討論
午後	回診	検査見学 血管内治療見学	別途指示	回診・カンファ レンス 病理検 討会	マイクロスার্ ジャーリー オリ エンテーショ ン トレーニング

## 6 評価法

出席および英語論文に関するレポートで評価します。

\*CC-EPOC 評価システムを導入しています。

## 7 その他注意事項

- (1) 患者さんに接するのにふさわしい服装と言動に注意してください。
- (2) 患者さんの個人情報を厳守（患者さんのデータのプリントアウトや電子媒体へのコピー禁止）してください。
- (3) 白衣，筆記用具は持参してください。
- (4) ハイブリッド型の臨床実習はオンラインで行います。該当者は個別に指示します。詳細は Moodle 上に記載します。

# 泌尿器科

## 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:30
- (2) 集合場所
- |   |                   |
|---|-------------------|
| 月 | C病棟3階手術室または泌尿器科外来 |
| 火 | 泌尿器科外来            |
| 水 | C病棟3階手術室または泌尿器科外来 |
| 木 | 泌尿器科外来            |
| 金 | C病棟3階手術室または泌尿器科外来 |

## 2 実習概要（実習内容）

指導医がマンツーマンで対応する。

## 3 GIO（一般目標）

- ・腎・尿路・男子生殖器疾患の診断・治療法を理解する。
- ・腎不全の診断・治療法を理解する。

## 4 SBO（到達目標）

- (1) 問診と理学的検査を行う。
- (2) 診断に必要な検査を計画する。
- (3) 腎不全治療に関する知識を習得する。
- (4) 腎移植に必要な検査を理解する。
- (5) 内視鏡検査に関する知識を習得する。
- (6) 画像の読影を行う。
- (7) ロボットなどの手術に参加し、主治医とともに術後管理を行なう。

## 5 スケジュール

曜日	担当教員	8:30	12:30	13:30	16:50
月	和田 小川 井上 中島 小池 小林 大島 原	リエンテーション・手術		手術	
火		外来実習		外来実習	
水		手術		手術	
木		外来実習		外来実習	
金		手術		手術	

※前日までに週間予定表を渡すので、各自確認すること。

## 6 評価法

出席，実習態度

## 7 その他注意事項等

時間厳守

## 精神科神経科

### 1 集合時間・集合場所

集合時間：9：00 集合場所：精神医学講座 医局3（臨床研究棟5F）

### 2 実習概要（実習内容）

- (1) 外来・入院患者の診療の見学及び実習を行う。
- (2) レポートを作成し、翌週月曜日までに精神医学事務室へ提出する。
- (3) 担当教員と適宜相談しながら担当症例のプレゼンテーションをすることができる。
- (4) 外来・病棟実習などは対面で、講義はオンラインで行うハイブリッド形式。

### 3 GIO（一般目標）

- (1) 精神神経疾患の主要症状について理解する。
- (2) 診断に必要な知識と技術について理解する。
- (3) 薬物療法や精神療法の意味について理解する。
- (4) 単科の精神病院の中で求められる精神科医療の役割について理解する。
- (5) 総合病院の中で求められる精神科医療の役割と限界について理解する。
- (6) 大規模単科精神病院の中で行われているリハビリテーションの役割について理解する。
- (7) 精神科医療の中で求められる地域連携の役割について理解する。

### 4 SBO（到達目標）

- (1) 疾患についての原因、病態、治療、予後について検討できる。
- (2) 入院患者の診察、面接技術を習得する。
- (3) 担当患者と生活全体を通じた関わりを持ち、疾患を抱えた一個人として理解できるよう務める。

### 5 週間スケジュール

	担当教員	午前	午後
月	稲垣 他	オリエンテーション、カンファレンス	回診、カンファレンス、（最終週）症例プレゼン
火	稲垣 他	外来実習	リエゾン回診、緩和ケアカンファ、レクチャー
水	山下 他	外来実習	ミニセミナー、病棟実習
木	山下 他	外来実習	病棟実習
金	大拙 他	外来実習	病棟実習

### 6 評価法

履修態度と理解の程度を、口頭試問およびレポート等も参考にして担当教員が評価する。

### 7 その他注意事項

- (1) 時間厳守、無断欠席は不可、必ず届出をすること。
- (2) 服装、態度など、患者に不快感を与えないように注意すること。
- (3) 白衣、名札、ノート、筆記用具を持参すること。

## 産婦人科

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 午前8時30分
- (2) 集合場所 B3病棟

### 2 実習概要(実習内容)

外来実習：妊婦健診、胎児スクリーニング、産後健診、腫瘍外来、不妊外来

処置見学：採卵や胚移植などの不妊治療の処置見学

手術実習：帝王切開、婦人科開腹手術、腹腔鏡手術、経膈手術の見学、助手

病棟実習：分娩見学、病棟受け持ち患者の診察

上記を本人の希望にあわせて行います。

基本的には受け持ち患者を割り振りますので、1例1例を深く考察して頂きます。

エコーの機会など、臨床実習Iでは十分に得られなかった経験を積めるように実習を行います。

#### 【注意事項等】

- ◆女性の身体診察は必ず二人以上で行うこと。
- ◆患者の人権やプライバシーに十分配慮して行動すること。
- ◆実習で得られた個人情報他人に漏らさないこと。
- ◆医療者としての振るまいに注意すること。
- ◆実習日から過去2週間分の自己健康管理票を携帯し、確認された場合提示すること。
- ◆体調不良等で欠席・遅刻する場合は必ず実習先と島根大学の産科婦人科学講座に連絡すること。
- ◆実習施設の規則等に従い、業務に支障をきたさないよう心がける。
- ◆実習の指導医の指示に常に従う。実習中トラブルや不慮の事故があった場合、必ず実習先の指導医及び島根大学の産科婦人科学講座に連絡すること。
- ◆実習における学生の基本的医行為については、各実習施設が決定し実施する。なお医療行為は必ず指導に当たる医師の指導・監視のもとに行うこと。

### 3 スケジュール

指導担当の医師と相談しながらスケジュールを決定してください。

### 4 スケジュール（オンライン）

指導担当の医師と相談しながらスケジュールを決定してください。

### 5 評価法

総括的評価：レポート、口頭諮問等により実習指導医並びに大学指導責任者が評価する。主に評価される項目は個別目標に準ずる。

実習提供者側への評価：実習を通じた学びと実習の改善案等の学生からのフィードバックも双方向に実施する。

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

### 1 集合時間・集合場所

(1) 集合時間 月曜日 8:30

(2) 集合場所 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 カンファレンス室

### 2 実習内容

4週間を通じて耳鼻咽喉科・頭頸部外科の診療に参加する。

外来・入院患者における診療（問診，診察，回診，手術）およびカンファレンスに参加する。

診療所における耳鼻咽喉科外来診療を見学し、可能なら実際の症例における検査も見学する。

毎週、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域のテーマについて調査し、臨床実習参加者と情報共有する。

### 3 スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30	オリエンテーション (耳鼻科カンファレンス室) 外来見学	病棟診察・処置 (B8病棟)	病棟診察・処置 (B8病棟)	病棟診察・処置 (B8病棟)	まとめ (耳鼻科カンファレンス室)
9:00		手術介助・見学	手術介助・見学	外来見学	手術介助・見学
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	カンファレンス 回診 症例検討 (B8病棟)	手術介助・見学	手術介助・見学	カルテチェック	
14:00				プレゼン準備	
15:00				(外来見学)	
16:00					
17:00					

### 4 評価方法

クリニカルクラクシップ評価項目に基づき、評価する。

## 眼 科

### 1 集合時間・集合場所

- 月 15:00 (初日のみ 14:50) 眼科カンファレンスルーム (臨床研究棟 5 階)  
火 個別に集合時間・場所を通知  
水 個別に集合時間・場所を通知  
木 個別に集合時間・場所を通知  
金 個別に集合時間・場所を通知

### 2 実習概要 (実習内容)

スケジュール表参照。

### 3 スケジュール (対面)

曜日	担当教員	午前	午後
月	山根 医局員全員		初日は 14:50 個別に指導医を指名 15:00-カンファレンス
火	担当指導医	個別に集合し、実習	(手術・外来見学)
水	担当指導医	個別に集合し、実習	(手術・外来見学)
木	担当指導医	個別に集合し、実習	(手術・外来見学)
金	担当指導医	個別に集合し、実習	(手術・外来見学)

### 4 スケジュール (オンライン)

曜日	担当教員	午前	午後
月	担当医	眼科イントロダクション・講義	
火	担当医	クリニカルクエスチョン演習	
水	担当医	クリニカルクエスチョン演習	
木	担当医	クリニカルクエスチョン演習	
金	谷戸	総括 (最終日)	

### 5 評価法

出席点, 履修態度, レポート。

### 6 その他注意事項

時間等変更がある場合、最新版を Moodle 上に掲載します。必ず Moodle で最新の情報を確認してください。

# 放射線科

## 1 集合時間・集合場所

	月		火		水		木		金	
	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後
集合時間	8:30	13:00	8:30	12:45	8:30	13:00	8:30	13:00	8:30	13:00
集合場所	放射線部 モニター 診断実習 室	放射線部 血管室	放射線部 モニター 診断実習 室	放射線科 医局 カンファ レンス室	放射線部 モニター 診断実習 室	放射線部 血管室	放射線部 モニター 診断実習 室	放射線部 血管室	放射線部 モニター 診断実習 室	放射線部 血管室

## 2 実習概要（実習内容）

- (1) X線写真, CT, MR, 核医学, 血管造影等の画像診断手技の見学と各種疾患の画像診断に関する読影実習。
- (2) IVR(Interventional Radiology)の適応決定のプロセスや治療の実際を見学する。  
\*IVR シミュレータによる体験型実習を含む。
- (3) 夕方の各科とのカンファレンス, 研究会に参加する(任意)。

## 3 GIO(一般目標)

放射線診断学, IVR の基礎知識を基に代表的疾患の診断・治療に関する知識を習得する。

## 4 SBO(到達目標)

- (1) 画像検査の原理と特徴について説明できる。
- (2) 中枢神経系の正常解剖について説明し, 代表的な疾患を列挙して, その画像上の特徴を記述できる。
- (3) 肺・縦隔の正常解剖について説明し, 代表的な疾患を列挙して, その画像上の特徴を記述できる。
- (4) 腹部・消化管の正常解剖について説明し, 代表的な疾患を列挙して, その画像上の特徴を記述できる。
- (5) 泌尿生殖器の正常解剖について説明し, 代表的な疾患を列挙して, その画像上の特徴を記述できる。
- (6) 乳腺・小児の正常解剖について説明し, 代表的な疾患を列挙して, その画像上の特徴を記述できる。
- (7) 血管造影の方法・基本的手技について理解する。
- (8) IVR の対象となる代表的疾患を列挙できる。
- (9) IVR の一般的な治療方法を説明できる。
- (10) IVR の適応・合併症が説明できる。

## 5 週間スケジュール

曜日	担当教員 AM/PM	8:30	12:00	13:00	15:00	16:50	
月	読影担当医/ IVR 担当医	モニター診断実習			IVR 検査実習、症例に関する復習		カンファレンス 研究会などが あればその都度 連絡する。 (参加は任意)
火	読影担当医/	モニター診断実習			12:45～症例検討		
水	読影担当医/ IVR 担当医	モニター診断実習			IVR 検査実習、症例に関する復習		
木	読影担当医/ IVR 担当医	モニター診断実習			IVR 検査実習、症例に関する復習		
金	読影担当医/ IVR 担当医	モニター診断実習			IVR 検査実習、症例に関する復習		

午後、IVR の検査がない時は画像診断 (IVR、又は消化管)

午前の月間スケジュール

時期	月	火	水	木	金
1 週目	頭部初級	頭部中級	頭部上級	骨軟部	乳腺
2 週目	胸部初級	胸部中級	胸部上級	小児	核医学
3 週目	骨盤初級	骨盤中級	腹部初級	腹部中級	腹部上級
4 週目	応用 1	応用 2	応用 3	応用 4	応用 5

## 6 評価法

各担当教員が達成度をチェックして評価。画像診断に関しては基本的なチェック項目と評価基準を初日に説明する。

- ・見ている画像の種類を説明する
- ・描出臓器の名称を言える
- ・異常所見の存在位置、性状を客観的な言葉で言える
- ・観察した結果をまとめ、どのように解釈するか述べる
- ・疑われる診断名と病変の拡がりを述べる

これらの内容に基づいた評価とフィードバックを行う。

## 7 その他注意事項等

教科書・ノート・筆記用具持参

患者さんに不快感を与えない服装

参考書籍として無料で閲覧できるオンライン教材「画像診断ガイドライン 2021」

URL : [http://www.radiology.jp/content/files/gl2021/diagnostic\\_imaging\\_guidelines\\_2021.pdf](http://www.radiology.jp/content/files/gl2021/diagnostic_imaging_guidelines_2021.pdf)  
を利用する。

# 放射線治療科

## 1 集合時間・集合場所

(1) 集合時間 初日は9:00 2日目以降については別途連絡する。

集合場所 放射線治療計画室（それ以降は随時連絡するので担当教員の指示に従うこと）

## 2 実習概要（実習内容）

(1) 放射線治療の基礎となる放射線腫瘍学に関する知識の習得と整理を行う。

(2) カンファレンスでの発表を通して、放射線治療の適応決定に参加する。

(3) 外来患者や入院患者の診療に参加し、放射線治療の役割を学習する。

(4) 腔内照射や組織内照射の治療に参加し実際の治療を経験する。

## 3 GIO（一般目標）

放射線腫学の基礎知識を基に代表的疾患の治療に関する知識の習得と実際の放射線治療の現場を経験し、基本的な治療計画のプロセスを習得する。

## 4 SB0（到達目標）

(1) 放射線治療の基礎となる放射線腫瘍学・放射線生物学の知識を取得する。

(2) がん診療における放射線治療の意義と目的を理解する。

(3) 放射線治療の適応となる代表的な疾患の治療方針・方法を習得する。

(4) 放射線治療の適応を評価するために必要な画像評価やその他の検査結果の評価法を理解する。

(5) 放射線治療計画の基本を習得し、概要を習得する。

(6) 放射線治療の有害事象と対策を理解する。

(7) 密封小線源治療の基本を習得し、概要を理解する。

(8) アイソトープ治療の基本を習得し、概要を理解する。

(9) 放射線被曝と防護の必要性と方法について習得する。

(10) 放射線治療科のチームの一員として、積極的に診療に参加して、放射線治療プロセスを学習する。

## 5 スケジュール（対面）

曜日	担当教員	午前	午後
月	玉置・園山・植	オリエンテーション, 外来（初診, 再診）, アイソトープ治療, 入院診療	外来（初診, 再診）, 放射線治療計画, ジョイントカンファレンス（呼吸器, 血液）
火	玉置・園山・植	外来（初診, 再診）, アイソトープ治療, 入院診療	放射線治療計画, 密封小線源治療, 診療科長回診, 放射線治療カンファレンス, 放射線治療多職種チームカンファレンス, ジョイントカンファレンス（緩和ケア, 頭頸部, 甲状腺, 乳腺, 泌尿器）
水	玉置・園山・植	外来（初診, 再診）, アイソトープ治療, 入院診療	放射線治療計画, 密封小線源治療, 放射線治療カンファレンス, ジョイントカンファレンス（院内がんサーボード）, 放射線治療セミナー（随時）
木	玉置・園山・植	外来（初診, 再診）, アイソトープ治療, 入院診療	放射線治療計画
金	玉置・園山・植	外来（初診）, アイソトープ治療, 入院診療	放射線治療計画, 密封小線源治療, 放射線治療カンファレンス, ジョイントカンファレンス（消化器, 婦人科）, 治療セミナー（随時）

## 6 スケジュール（オンライン）

- ・1日1回は Webex 等を用いて、双方向性のレクチャーおよび講義を行う予定
- ・また、空いている時間を利用して、1週間に1疾患程度レポートを作成する。
- ・レポートの発表は、Webex 等を利用して適宜質疑応答を交えて行う。
- ・時間帯については、初回については前週の木曜日か金曜日に当科より連絡する。
- ・2日目以降については、前日のレクチャー時に連絡する。
- ・レポートの形式や実習の詳細な概要等は、初日に Webex 等を用いて説明を行う

## 7 評価法

各担当教員が達成度をチェックして評価する。

## 8 その他注意事項等

教科書（やさしくわかる放射線治療学：秀潤社）・ノート・筆記用具持参  
患者さんに不愉快を与えない服装を心がける。

# 乳 腺 外 科

## 1 集合時間・集合場所

(1) 集合時間 9:00

(2) 集合場所 外科外来 その週の手術症例を紹介します

## 2 実習概要(実習内容)

乳癌手術症例の術式の検討、術後治療などを理解する。

乳腺外来を見学し、診察、マンモグラフィの読影、・エコーなどを見学する。

乳腺外科の概要を理解する

## 3 スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00	手術患者の紹介	手術	乳腺外来の見学	マンモグラフィ テスト	乳腺外来の見学
10:00	手術患者の学習	手術	乳腺外来の見学	マンモグラフィ	乳腺外来の見学
11:00	手術患者の学習	手術	乳腺外来の見学	テスト	乳腺外来の見学
12:00	食事休憩	食事休憩	食事休憩	食事休憩	食事休憩
13:00	乳腺外来の見学	手術	乳腺外来の見学	テストの解説	乳腺外科の総括
14:00	乳腺外来の見学	手術	乳腺外来の見学	テストの解説	乳腺外科の総括
15:00	乳腺外科の説明	手術	マンモグラフィの 事前学習	テストの解説	乳腺外科の総括
16:00	1日の振り返り	1日の振り返り	1日の振り返り	1日の振り返り	1日の振り返り

## 5 評価法

出席状況, 実習態度, 観察記録などで総合的に評価する。

\*遅刻は厳禁であり、病気等で休む場合には必ず連絡すること

\*白衣を着用し、みだしなみには注意すること (サンダルは不可)

# 麻 醉 科

## 周術期コース、集中治療コース

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 8:00
- (2) 集合場所 各部署（手術室記録室、集中治療部カンファ室）

★コース開催前にメールで実習希望部署の確認を行い、調整（5のスケジュール参照）

### 2 実習概要（実習内容）

周術期管理（手術麻酔、手術前後の管理）・集中治療管理について、個々の症例を通して学習する。どの分野においても全身管理の必要性を再認識し、循環・呼吸管理・麻酔方法・薬剤の使用、モニタリング・疼痛管理・感染症管理など全身管理に対する意義について認識を深める。医師に求められる責任を自覚し、医療者の一員として、チーム医療、医療安全を意識し、患者中心の医療行為の実践に努める。

**\*オンライン実習の場合は、麻酔科の moodle 内の動画やプロシージャークンサルト教材などで自習とする。**

### 3 GIO（一般目標）

麻酔科学（周術期管理、集中治療）に関わる知識のみならず、医療技術、医療人としての行動を身につける。

### 4 SBO（到達目標）

- (1) 周術期における麻酔・全身管理の必要性を説明できる。
- (2) 代表的な麻酔法を挙げ、それぞれの特徴を説明できる。その特徴を踏まえ、担当患者に適切な麻酔方法を選択できる。
- (3) 代表的な麻酔薬の薬理学的特徴を述べる事が出来る。その特徴を踏まえ、麻酔計画を立案し、発表できる。
- (4) 術前訪問を行い、担当患者の術前合併症を挙げ、対応を説明できる。
- (5) 循環作動薬の特徴を理解し、投与できる。
- (6) フェイスマスクやエアウェイを用いた気道確保ができる。この時、換気の有効性を評価できる。気管挿管の介助を行う。
- (7) 胃管挿入、末梢静脈路を確保できる。
- (8) 麻酔担当医とともに鎮静・鎮痛・筋弛緩の程度を評価し、麻酔調整を行う
- (9) 患者の術前状態、手術内容に応じて必要なモニターを選択できる。また、侵襲的なモニターの合併症を説明できる。

- (10) モニター（ECG, BP, SpO2, 体温など）から患者状態を評価し、フィジカルアセスメントを含む対応ができる。麻酔中のバイタルの目標設定ができる。
- (11) 輸液の投与計画を立案し、調整できる。
- (12) 全身麻酔中に人工呼吸器の設定ができる。必要に応じて気管吸引を行う。
- (13) 術後疼痛管理方法を挙げ、患者にあった方法を選択できる。
- (14) 術後訪問を行い、周術期合併症の有無・問題点を考察できる。
- (15) 集中治療の適応疾患を記述できる。
- (16) 集中治療における治療戦略を討議する。
- (17) 集中治療を受ける患者の身体所見をとることが出来る。
- (18) 集中治療を受ける患者の重症度評価を行い、プレゼンテーションを行うことが出来る。
- (19) ベッドサイドにおいて全身の超音波検査（Point of Care）を実施できる。
- (20) 敗血症の診断および管理について記述できる。
- (21) 人工呼吸管理療法・酸素療法の種類と特徴を列挙できる。
- (22) 医療者向けの BLS を実践できる
- (23) 患者急変時の ACLS や循環呼吸管理について説明できる。
- (24) 重症患者ケアチームに参加する。
- (25) 集中治療患者における疼痛管理・鎮痛管理・せん妄管理・早期離床の重要性を理解する。
- (26) 治療限界を知り、患者や家族に寄り添った治療選択を行う。

## 5 スケジュール

4週にわたり、周術期コース、集中治療コースの中から選択し実際に患者を担当し臨床実習を行う。1週単位でコースの変更も可。回診、カンファレンスなどに参加し、幅広く臨床能力を身につけていく。

★各部署、それぞれ1週間ずつの単位で選択可能。

例：1週目＝周術期 2週目＝周術期 3週目＝集中治療 4週目＝集中治療

★実習開始後の希望部署変更も1週間単位で調整可能。

担当教員：麻酔科医師一同

総合討議担当：二階哲朗 森英明

## 6 評価法

プレゼンテーション、総合討議、麻酔科独自のポートフォリオ、ディスカッションなどで行う。

また、麻酔科独自のポートフォリオは毎週金曜日に moodle に提出する。

原則1週間に1回研修状況を報告し、総合討議は原則4週目の最終日。(適宜変更あり)

## 歯科口腔外科

### 1. 集合時間・集合場所

月 : 8:30・第2研究棟1階 (歯科口腔外科学講座 医局) \*月曜が休みの場合は火曜日  
火～金: 9:00・附属病院3階 (歯科口腔外科 外来)

### 2. 実習概要 (実習内容)

- (1) 歯科口腔外科および口腔ケアセンターの外来・入院診療や手術を見学・介助する.
- (2) Moodle で症例を毎週1症例選択し, レポート作成・提出を行う.

### 3. GIO (一般目標)

全人的医療の中での口腔顎顔面の重要性を理解し実践する.

### 4. SBO (到達目標)

- (1) 診療を見学・体験し, 歯科口腔外科の診療内容について理解を深める.
- (2) 口腔顎顔面の疾病についての病因, 病態, 治療, 予後について説明できる.

### 5. スケジュール

曜日	担当教員	午前	昼休憩	午後
月	管野, 小林 辰巳, 松田 園山, 宋本	8:30～12:30 ・オリエンテーション ・手術介助	12:30 ～ 13:30	13:30～16:00 ・手術介助
火	管野, 小林 辰巳, 松田 園山, 宋本	9:00～12:30 ・症例レポート (Moodle)	同上	13:30～16:00 ・症例レポート (Moodle)
水	管野, 小林 辰巳, 松田 園山, 宋本	9:00～12:30 ・症例レポート (Moodle)	同上	13:30～16:00 ・手術介助
木	管野, 小林 辰巳, 松田 園山, 宋本	9:00～12:30 ・症例レポート (Moodle)	同上	13:30～16:00 ・症例レポート (Moodle) ・病棟回診
金	管野, 小林 辰巳, 松田 園山, 宋本	9:00～12:30 ・手術介助	同上	13:30～16:00 ・手術介助

### 6. 評価法

- ・出席状況, 履修態度
- ・レポート

## 7 その他注意事項等

- ・時間厳守
- ・服装，身だしなみに気をつけること
- ・患者の個人情報の秘匿
- ・患者の臨床画像の取り扱いは指導医の指示に従うこと

# 臨床検査医学

## 検査部・輸血部

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間 午前 9:00 午後 13:30
- (2) 集合場所 病院2階 検査部ポリクリ室

### 2 実習概要（実習内容）

5年生の必修基本実習で学んだ臨床検査医学・輸血医学の知識と技術を基礎として、さらに発展的なレベルの実技演習とトレーニングを行う。また、提示される症例の臨床検査や画像データの判読を通して、臨床的な判断を育成する。

### 3 GIO（一般目標）

臨床検査の意義、手技と方法、検査値とその解釈を学ぶトレーニングを通して、臨床検査に含まれたピットフォールとその留意点を学び、臨床診断と経過観察における臨床検査の有用性を理解し、修得する。

### 4 SBO（到達目標）

- (1) 検査オーダーから測定まで手順を学び、測定を行う。
- (2) 採血（動脈・静脈）や基本的検査の手技を習得する。
- (3) 症例の臨床検査成績を解釈し、説明できる（RCPC）。
- (4) 尿沈渣標本、細菌塗抹標本を作製、鏡検し、疾患の判断プロセスを学ぶ。
- (5) 血液・凝固、生化学・免疫、遺伝子検査の意義を理解し、実際の診断に利用できる。
- (6) フローサイトメーター、PCR等、各検査の原理を理解し、結果を正しく解釈できる。
- (7) 筋電図、神経伝達速度、脳波を記録し、代表的疾患の診断的価値を学ぶ。
- (8) 心電図、各種エコー検査、呼吸機能検査を判読し、異常となる各疾患を学ぶ。

### 5 スケジュール

4週間を1クールとする

	担当教員	内容
1週目	矢野，後藤，石飛楨，竹内	遺伝子検査，微生物検査，血ガス，ドック
2週目	吉富，新田，岡崎	生理機能検査（電気生理，各種エコー等）
3週目	井上，足立，兒玉，上垣	血液・凝固検査，輸血検査，病理検査
4週目	小林，石飛文，佐藤，野畑，大國	生化学・免疫検査，一般検査，採血，新生児マス

### 6 評価法

実習態度及び実習中の口頭試問で評価する。必要に応じて小テスト，レポート課題を行う。

### 7 その他注意事項等

集合時間を守ること。

## 病 理 部

### 1 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間      午前 9 : 00      午後13 : 00
- (2) 集合場所      病院2階      病理部

### 2 実習概要（実習内容）

病理標本作製法や診断過程の知識を基礎として、実際の症例を用い、病理医の指導のもとで病理診断や報告書の作成を経験する。

### 3 G I O（一般目標）

標本作製から病理診断報告までの過程を学び、その臨床における重要性や問題点を認識する。

### 4 S B O（到達目標）

- (1) 病理オーダーから報告までの過程を説明できる。
- (2) 術中迅速病理診断を体験し、その方法を説明できる。
- (3) 組織標本作製の過程を説明できる。
- (4) 免疫染色の原理と過程を説明できる。
- (5) 細胞診標本作製の過程を説明できる。
- (6) 医師の指導のもと、外科切除標本の画像撮影、固定、肉眼的及び組織学的観察を行い、病理診断の報告書を作成する。
- (7) 生検組織の処理過程を説明できる。
- (8) 医師の指導のもと生検組織標本を観察し、診断結果を生検カンファレンスで報告する。
- (9) 臨床各科とのカンファレンスや抄読会に参加する。
- (10) 病理解剖に参加する。

## 5 スケジュール（対面）

曜日	担当	9:00	12:00	13:00	14:00	16:30
月	病理部 医師 技師	オリエンテーション 手術検体処理 術中迅速見学		手術検体処理	抄読会 (3,4週目に担当)	組織標本作製手技 手術検体処理 典型症例の抽出
火	病理部 医師 技師	手術検体処理 術中迅速見学 典型症例の鏡検		ONSA見学	典型症例の解説	典型症例の鏡検
水	病理部 医師 技師	手術検体処理 術中迅速見学 手術症例の鏡検		報告書作成	免疫染色標本作製手技 病理各論講義	手術症例の鏡検 腫瘍科カンファレンス出席
木	病理部 医師 技師	手術検体処理 手術症例の鏡検		報告書作成	生検カンファ	指導医と報告書を作成
金	病理部 医師 技師	手術検体処理 手術症例の鏡検		細胞診標本 鏡検	細胞診標本の作製手技	指導医と報告書を作成

## 6 評価表

実習態度及び実習中の口頭試問で評価する。

## 7 その他注意事項等

- (1) 集合時間を守ること
- (2) 病理検体を扱う上でも患者の尊厳と利益を常に意識すること

# 救急医学

## 1 集合時間・集合時間

月曜日（実習初日）8：00 救急外来カンファレンス室

## 2 実習概要（実習内容）

- (1) 救急患者（ウォークイン，救急車）の患者診察に参加する。
- (2) 入院患者の診察を担当する。
- (3) 毎週火曜日に 15 時～印象に残った症例をプレゼンテーションする

## 3 GIO（一般目標）

- (1) 救急患者及び総合診療科外来患者に対する実践的な診療能力を身につける。
- (2) 診療内容を口頭及び症例報告形式でプレゼンテーションすることが出来る。
- (3) 救急科の入院患者の診療を指導医の指導のもとで実践出来る。
- (4) 患者の気持ちに寄り添った診療を行うことが出来る。

## 4 SBO（到着目標）

- (1) 多数の患者の診療を自分で行い，実践的な診療能力を身につける。
- (2) 初期診療におけるバイタルサインの重要性を説明できる。
- (3) 緊急度を評価でき，診断治療の計画を立案できる。
- (4) 重大な病変を見逃すことなく診断できる。
- (5) Common disease に対する基本的な診療戦略を立案できる。
- (6) 患者さんそれぞれに適切な治療方針を説明できる。
- (7) 患者さん，家族に対する適切な接し方を習得する。

## 5 スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
6 年生	初日は全員 8:00～ER カンファレンス室 自身で設定した日に日勤、準夜に入る						

- ・日勤 8：00～17：00，準夜 17：00～22：00 のシフト制になっています。
- ・毎日 8：00～と 17：00～救急外来カンファレンス室で申し送り兼カンファレンスを行っています。
- ・日勤（8：00～17：00）と準夜勤（17：00～22：00）をそれぞれ 1 勤務と換算し，1 週間当たり平日の回数分の勤務数に入る。なお、火曜日のプレゼンのためだけに来院することは 1 勤務とは換算しない。
- ・土曜，日曜，祝日に勤務に入ることも可能。

・実習内容

- ・患者の病歴・身体所見を聴取し、上級医にプレゼンし検査・治療の方針を考える
- ・モニター装着、12誘導心電図装着、患者の移動介助、採血、静脈路確保、尿道カテーテル留置、経鼻胃管挿入、など

毎週火曜日のプレゼンについて：

ERで印象に残った症例について

いずれもスライド10枚以内(タイトル1枚、なぜその症例(内容)を選んだか1枚、症例経過2~3枚、学んだこと(国試のポイント)1~2枚、まとめ1枚)

※救急外来カンファレンス室のActisパソコン上で発表し、デスクトップに作成したスライドのコピーを残していくこと。

## 6 評価法

担当教員が実習態度、プレゼン内容により評価する。

## Acute Care Surgery

### 1. 集合時間・集合場所

- (1) 集合時間           8:20（火曜日は 7:30 から抄読会と全症例カンファレンス）  
夜勤実習日は 17:00 集合（日勤帯は休み）  
（日勤帯は 8:30～17:15、夜勤帯は 17:00～翌 10:00）
- (2) 集合場所           高度外傷センター棟 2 階医局

### 2. 実習概要

- (1) 高度外傷センターにおける外傷初期診療、救急外科初期診療を指導医とともに行う。
- (2) ICU、HCU および E-ICU における入院患者の診療を学ぶ。
- (3) 緊急手術に参加して外傷外科・救急外科の手術法について学ぶ。
- (4) 術後集中治療について、ICU、HCU および E-ICU での術後管理に参加する。
- (5) ドクターカーを中心とした病院前診療に参加してその実際を学習する。
- (6) 災害医療について学習する。
- (7) **Surgical rescue** について学習する。

### 3. GIO（一般目標）

外傷診療および救急外科疾患における初期対応から手術適応の判断、手術手技、術後集中治療の流れを理解し、それぞれの概要を習得する。病院前診療の基本事項を理解し習得する。

### 4. SBO（到達目標）

- (1) 外傷初期診療の流れを把握し実践する
- (2) 救急腹部疾患における診療の流れを把握し実践する
- (3) 身体所見から患者の重症度判断ができる
- (4) 外傷初期診療の優先順位を理解し、治療戦略を説明できる。
- (5) 救急病態の手術の適応と必要な治療法を理解する。
- (6) 術後集中治療に必要な診察、検査、治療に関して理解する。
- (7) 病院前診療の特殊性について理解する。
- (8) 災害医療について理解する。
- (9) **Surgical rescue** について理解する。
- (10) **Acute Care Surgery** における科学的根拠について理解する。

## 5. スケジュール

通常実習の場合（日勤は 8:30～17:15、夜勤は 17:00～翌 10:00）

曜日	担当教員	8:30-	9:00-15:00	15:00-18:00	17:00-
月	渡部	新患・重症 カンファレンス	外傷センター初期診 療実習・手術参加・ ICU 管理実習・ドク ターカー同乗実習・ surgical rescue 実習	外傷センター初期診療実 習・手術見学・ICU 管 理実習・ドクターカー同 乗実習・surgical rescue 実習	夜勤実習 (指導医とともに 夜勤診療実習)
火	比良 木谷	抄読会、全症例 カンファレンス			
水	岡	新患・重症			
木	室野井	カンファレンス			
金					

※火曜日は 7:30 から抄読会、全症例カンファレンスと教授回診

## 6. 評価法

出席状況、実習態度、プレゼンテーション（実習最終週に実施）、レポートの提出により総合的評価を行う。**Active learning を重視し、自学自習を積極的に行うこと。**自ら学びとろうとする態度・姿勢も評価項目とする。

## 7. その他注意事項

- (1) 実習は指導医と学生 1 : 1 でチームとなり初期研修医に準じた形で共に参加型臨床実習を行う。指導医が日勤の時は日勤で、夜勤の時は夜勤での二交代制実習とする。実習時間は日勤 8:20～18:00、夜勤 17:00～翌 10:00 とし、この時間帯以外で指導医が休みの時は学生も休みとする。ただし、自学実習希望は適宜許可する。
- (2) 実習初日の朝に指導医を決定し、原則指導医とともに行動する。
- (3) 患者へ処置を行う場合は、必ず指導医の管理下で行うこと。
- (4) 高度外傷センター初療室およびハイブリッド ER 室は手術室空調のため、手術室と同様の入室手順で入室すること。
- (5) 救急・総合診療センターおよび高度外傷センター内では適切な P P E を装着すること。
- (6) ドクターカーは消防の要請から 3 分で出動するため、時間内に参集できない場合は同乗できない。
- (7) 服装・態度に注意すること。
- (8) 患者への言葉遣いに注意する。不用意な発言を慎むこと。
- (9) 個人情報取り扱いと守秘義務を遵守すること。
- (10) 白衣・聴診器を持参すること。
- (11) Trauma team activation system に各個人のメールアドレスを登録するので、トラウマ・コードが発動されメールが届いたときは、高度外傷センターに集合する。この場合、実習時間外での参加も許可する。

- (12) 体調不良など実習を休む場合は必ず、担当指導医または医局秘書に連絡をすること。**無断欠席は実習態度評価の減点対象**とする。
- (13) 社会人としての自覚を持った行動を行うこと。
- (14) 時間は厳守すること。

## 医学生手技リスト

		コアカリ	門田レポート
診察	問診	レベル1	必須項目
	カルテ記載	レベル1	必須項目
	バイタルチェック	レベル1	必須項目
	一般診察（全身・各臓器）	レベル1	必須項目
	耳鏡・鼻鏡	レベル1	必須項目
	眼底鏡	レベル1	必須項目
	基本的婦人科診察	レベル1	必須項目
	乳房診察	レベル1	必須項目
	直腸診察	レベル1	必須項目
	前立腺触診	レベル1	必須項目
	高齢者の診察	レベル1	必須項目
	患者：家族への病状の説明		推奨項目
	分娩介助		推奨項目
	妊婦の診察と分娩	レベル2	
	婦人科疾患の診察	レベル2	
直腸鏡・肛門鏡		推奨項目	

一般手技	体位交換、移送	レベル1	
	皮膚消毒	レベル1	必須項目
	外用薬の貼付・塗布	レベル1	必須項目
	気道内吸引	レベル1	必須項目
	ネブライザー	レベル1	必須項目
	静脈採血	レベル1	必須項目
	末梢静脈確保	レベル1	必須項目
	末梢静脈ラインからの薬剤投与		
	動脈ラインからの採血		
	胃管挿入	レベル1	必須項目
	尿道カテ挿入抜去	レベル1	必須項目
	注射（皮下）	レベル1	必須項目
	注射（皮内）	レベル1	必須項目
	注射（筋肉）	レベル1	必須項目
	注射（静脈内）	レベル1	必須項目
	予防注射		必須項目
	ギブス巻き		推奨項目
	小児の採血		推奨項目

一般手技	カニューレ交換		推奨項目
	浣腸		推奨項目
	中心静脈カテ挿入の介助・見学	レベル2	
	動脈採血・ライン確保の介助・見学	レベル2	
	腰椎穿刺の介助・見学	レベル2	
	膀胱洗浄	レベル2	
	ドレーン挿入・抜去の介助・見学	レベル2	
	全身麻酔の介助・見学	レベル2	
	局所麻酔	レベル2	
	輸血の介助・見学	レベル2	
	眼球に直接接触れる治療	レベル2	
	インスリンの手技、SMBG、インスリンポンプ手技の指導		
	動脈採血		
	動脈ラインの確保		
	肋間神経ブロック		
	放射線治療およびそれに関する処置や準備の介助・見学		
	小線源治療終了後の処置（ガーゼ抜去、器具抜去）		
各種診断書・検案書・証明書の作成のの介助・見学	レベル2		

外科手技	清潔操作	レベル1	必須項目
	手洗い（手術前の手洗い）	レベル1	必須項目
	ガウンテクニック	レベル1	必須項目
	縫合	レベル1	必須項目
	抜糸	レベル1	必須項目
	消毒・ガーゼ交換	レベル1	必須項目
	手術助手	レベル2	必須項目
	止血処置		必須項目
	膿瘍切開・排膿の介助・見学		推奨項目
	嚢胞・膿瘍穿刺（体表）の介助・見学		推奨項目
	創傷処置		推奨項目
	熱傷処置		推奨項目
	皮膚切開、開創（開胸、開腹）、閉創（閉胸、閉腹）		
	胸腔ドレーンの挿入・固定・留置		
	膀胱鏡の観察と抜去		
	膀胱鏡の挿入の介助・見学		
	胸腔鏡スコピスト、腹腔鏡スコピスト		
	それぞれの手技および処置の介助・見学		

外科手技	生検の介助と見学		
	全身麻酔の介助		
	薬剤の準備と投与、輸液速度の調整、輸液の交換、呼吸器設定		
	術前・術中・術後管理の介助・見学	レベル2	

検査手技	尿検査	レベル1	必須項目
	末梢血塗抹標本	レベル1	必須項目
	微生物学的検査 (Gram 染色含む)	レベル1	必須項目
	病原体の迅速検査		必須項目
	簡易血糖測定		必須項目
	妊娠反応検査	レベル1	必須項目
	血液型判定	レベル1	推奨項目
	交差適合試験		推奨項目
	アレルギー検査 (塗布)		推奨項目
	脳波検査(記録) の介助・見学	レベル1	
	超音波検査 (心血管)	レベル1	必須項目
	超音波検査 (腹部)	レベル1	必須項目
	超音波検査 (甲状腺、頸動脈)		
	残尿測定		
	細胞診の介助と見学		
	視力視野	レベル1	
	聴力	レベル1	
	平衡検査	レベル1	
	12 誘導心電図	レベル1	必須項目
	経皮的酸素飽和度モニター	レベル1	必須項目
	脳波検査(判読) の介助・見学	レベル2	
	筋電図の介助・見学	レベル2	
	眼球に直接接触れる検査	レベル2	
	超音波検査 (判読) の介助・見学	レベル2	
	エックス線検査 (判読) の介助・見学	レベル2	
	CT/MRI (判読) の介助・見学	レベル2	
	核医学 (判読) の介助・見学	レベル2	
	内視鏡検査の介助・見学	レベル2	
	認知機能検査の介助・見学		
	電気痙攣療法の見学・介助		
	発達テストの介助・見学		推奨項目
	知能テストの介助・見学		推奨項目

検査手技	心理テストの介助・見学		推奨項目
------	-------------	--	------

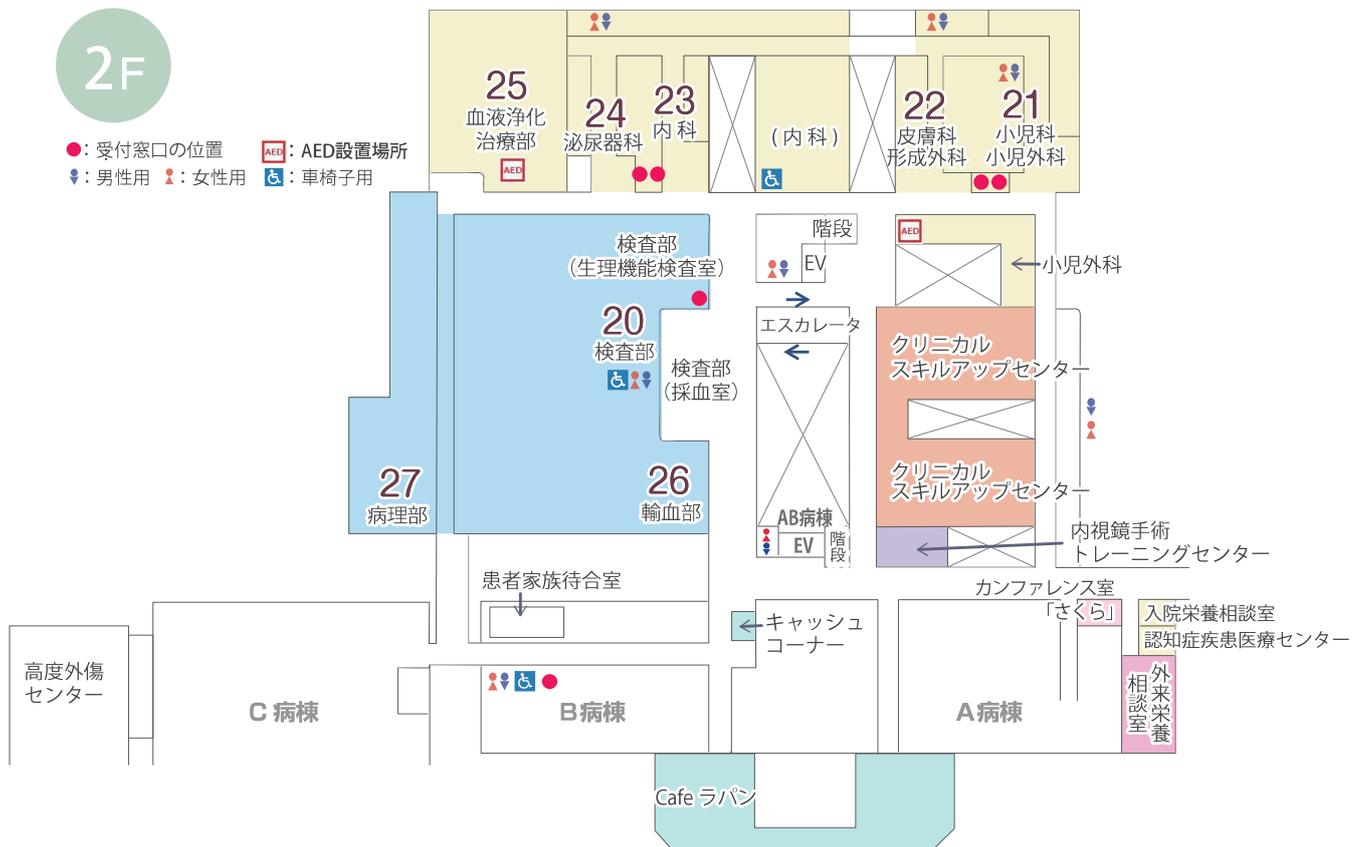
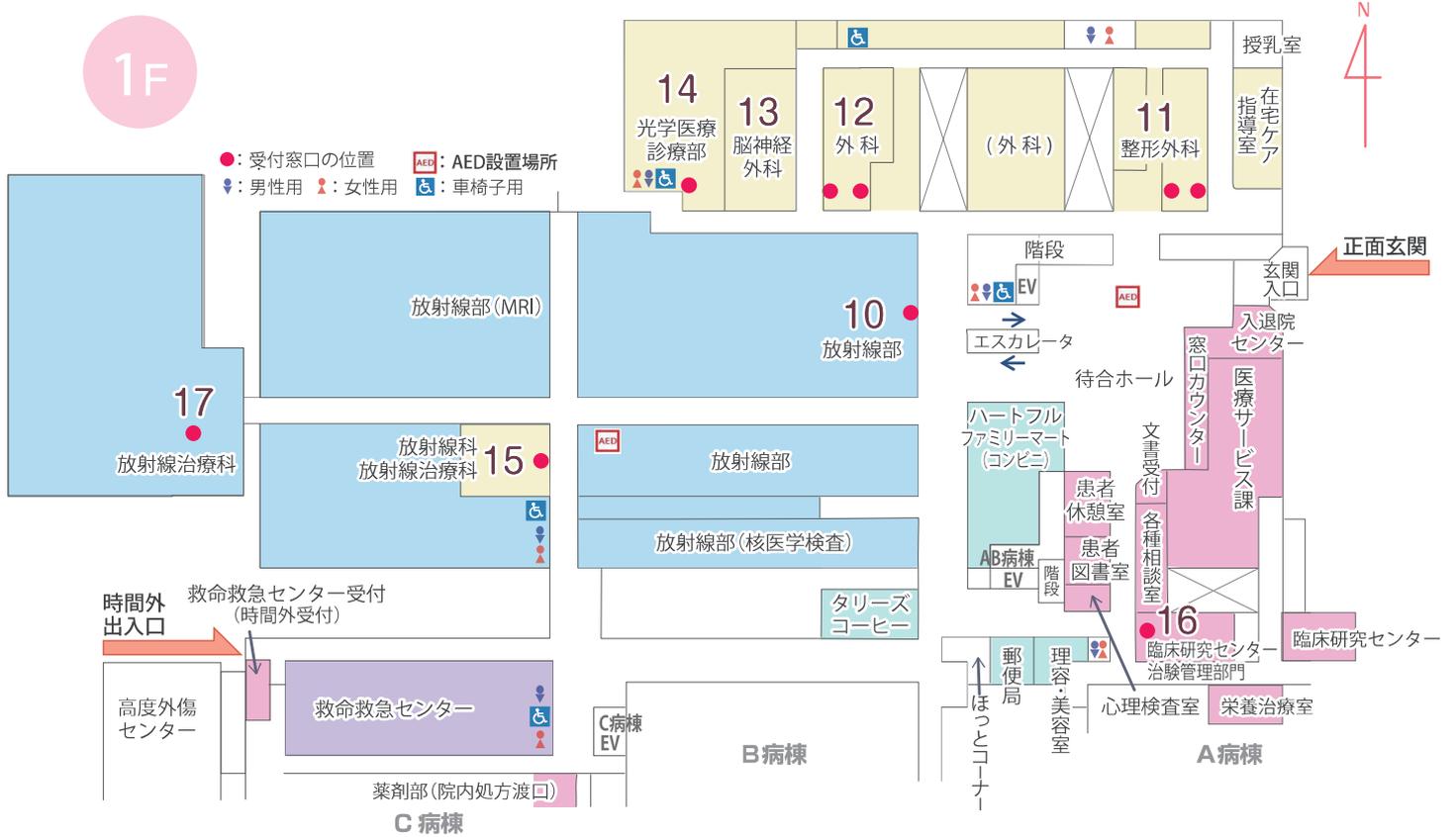
救急	一次救命処置	レベル1	必須項目
	モニターの装着		
	気道確保		推奨項目
	経口エアウェイの挿入		
	気管内挿管・抜管		
	胸骨圧迫		必須項目
	バックバルブマスクによる換気		必須項目
	AED		必須項目
	電気ショック		推奨項目
	気管挿管の介助・見学		推奨項目
	固定などの整形外科的保存方法		推奨項目
	外傷処置の介助・見学	レベル2	
	救命治療（二次救命処置など）	レベル2	
	救急病態の初期治療	レベル2	

治療	処方薬(内服薬、注射、点滴など)のオーダーの介助・見学		必須項目
	食事指示の介助・見学		必須項目
	安静度指示の介助・見学		必須項目
	定型的な術前・術後管理の指示の介助・見学		必須項目
	酸素投与量の調整の介助・見学		必須項目
	診療計画の作成の介助・見学		必須項目
	健康教育の介助・見学		推奨項目

レベル1と必須項目：指導医の指導・監視の下で実施されるべき医行為

レベル2と推奨項目：指導医の実施の介助・見学にとどめることが推奨されている医行為

# 病院案内図





## 病棟配置

### 【C病棟】

9F	女性・個室病棟
8F	先端がん治療センター病棟
7F	MCU SCU
6F	小児センター病棟
5F	緩和ケア病棟
4F	(設備階)
3F	手術部
2F	ICU、HCU、E-ICU、 MEセンター
1F	救命救急センター、材料部 高度外傷センター、薬剤部

### 【B病棟】

耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科
消化器外科、肝・胆・膵外科、 乳腺・内分泌外科、高度外傷センター
心臓血管外科、呼吸器外科、 整形外科、高度外傷センター
脳神経外科、泌尿器科、 総合診療科、高度脳卒中センター
皮膚科、形成外科、婦人科、 放射線治療科、歯科口腔外科
産科、婦人科、MFICU
患者家族待合室 医師当直室、スタッフ室等
SPDセンター、リネン Aiセンター、剖検室等

### 【A病棟】

精神科神経科	8F
消化器内科、肝臓内科	7F
循環器内科、呼吸器・化学療法内科、 救急科	6F
脳神経内科、呼吸器・化学療法内科、 泌尿器科、高度脳卒中センター	5F
内分泌代謝内科、血液内科、腫瘍内科、 膠原病内科、腎臓内科	4F
整形外科、婦人科	3F
認知症疾患医療センター 外来・入院栄養相談室、スタッフ室等	2F
栄養治療室 患者給食厨房、臨床研究センター	1F